仙台市文化財調査報告書第371集

仙台平野の遺跡群XX

－平成21年度発掘調査報告書－

鴻ノ巣遺跡第12次・小鶴城跡第5次・大野田古墳群第19次
南小泉遺跡第63次・燕沢遺跡第13次

２０１０年３月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第371集

仙台平野の遺跡群XX

－平成21年度発掘調査報告書－

鴻ノ巣遺跡第12次・小鶴城跡第5次・大野田古墳群第19次
南小泉遺跡第63次・燕沢遺跡第13次

２０１０年３月

仙台市教育委員会

序　　文

仙台市は「杜の都・仙台」という愛称で広く親しまれ、四季折々の豊かな自然にあふれる仙台の風景は、私たち市民の誇りであると同時に将来へ守るべき大切な財産であります。

この仙台市の素晴らしい自然・風景と同様に、私たち市民の誇りであり大切な財産の一つに、悠久の歴史に育まれ守れてきた文化遺産（文化財）の存在が挙げられます。仙台市内には現在約800ヵ所もの遺跡が確認されております。これらの文化財は、これまでの大きな時の流れの中でその存在価値を高めるとともに、現在においては各種開発事業によって絶えず破壊・消滅の恐れにさらされています。当教育委員会としましては、皆様のご理解とご協力を賜りながら、これらの貴重な文化財を保存し、次世代へ受け継いでいくことに日々努めております。

本報告書には、各種開発に先立ち、平成21年度に発掘調査を実施した鴻ノ巣遺跡、小鶴城跡、大野田古墳群、南小泉遺跡、燕沢遺跡の調査結果を収録しております。

先人達の遺した貴重な文化遺産を保護し、保存活用を図りつつ未来へと継承していくことは、現代に生きる私たち市民の大事な仕事であると思います。つきましては、本報告書が、学術研究のみならず学校教育や生涯学習などのあらゆる場面で活用され、皆様の文化財へのより深い関心とご理解の一助となれれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査並びに報告書刊行に際しましてご協力、ご助言をいただきました多くの方々に、心より深く感謝申し上げます。

平成22年３月

仙台市教育委員会
教育長　荒　井　　崇

例　　言

1．本書は、平成21年度国庫補助事業による個人専用住宅他補助対象事業に伴う「仙台平野の遺跡群」の発掘調査報告書である。

2．本書は、仙台市教育委員会が実施した個人住宅建築に伴う鴻ノ巣遺跡第12次、小鶴城跡第５次、大野田古墳群第19次、南小泉遺跡第63次、燕沢遺跡第13次の各発掘調査報告を合本にした報告書である。

3．本書の編集は、仙台市教育委員会文化財課調査係の担当調査員の協議のもとに森田義史がとりまとめ、執筆は次のように分担して行った。

主　　事　鈴木　　隆：調査計画と実績
主　　事　森田　義史：鴻ノ巣遺跡第12次・小鶴城跡第５次
主　　事　大久保弥生：大野田古墳群第19次
文化財教諭　佐々木　匠：南小泉遺跡第63次
文化財教諭　菊地　貴博：燕沢遺跡第13次
臨時職員　千葉　恭彦：南小泉遺跡第63次

4．遺物実測やトレース等の整理作業は、主に向田文化財整理収蔵室の作業員が行った。

5．本書にかかわる遺物・写真・実測図面等の資料は、仙台市教育委員会が保管している。

6．本書で使用した土色は、「新版標準土色帖」（小山・竹原：1976）に準拠した。

7．本書中で使用した地形図は国土地理院発行の１：25000『仙台市南西部・南東部・北東部・北西部』の一部を使用している。

8．断面図・平面図の標高値は、海抜高度を示している。座標値は、日本測地系による。

9．遺物図版の縮尺は、任意とする。

10．遺構は種別ごとに次の略号を用いた。

SI：竪穴住居跡　SB：掘立柱建物跡　SD：溝跡　SK：土坑
SE：井戸跡　P：ピット　SX：性格不明遺構

11．遺物の登録は、以下の分類と略号を用いた。

A：縄文土器　B：弥生土器　C：土師器（非ロクロ）　D：土師器（ロクロ）　E：須恵器
F：丸瓦　G：平瓦　I：陶器　J：磁器　K：石器・石製品
L：木製品・杭材　N：金属製品　P：土製品　S：埴輪

12．竪穴住居跡・掘立柱建物跡の柱穴及びピット内の網かけ部分は、柱痕跡の位置と範囲を示している。

13．土師器実測図における網かけは、黒色処理されていることを示している。

14．遺物観察表のカッコ内の法量は、残存値・推定値を示している。

15．本文中の「灰白色火山灰」（庄子・山田1980）は、これまでの仙台市域の調査報告や東北中北部の研究から、「十和田a火山灰（To－a)」と考えられている。降下年代は現在、西暦915年と推定されており、本書もこれに従う。

山田一郎・庄子貞雄1980「宮城県に分布する灰白色火山灰」『宮城県多賀城跡調査研究所年報1979』
仙台市教育委員会2000『沼向遺跡第１～３次発掘調査』仙台市文化財調査報告書第241集
小口雅史2003「古代北東北の広域テフラをめぐる諸問題－十和田aと白頭山（長白山）を中心に」『日本律令制の展開』吉川弘文館

目　　次

序文
例言
目次

Ⅰ　調査計画と実績

1　調査体制……1
2　調査計画……1
3　調査実績……1

Ⅱ　鴻ノ巣遺跡第12次発掘調査報告

1　調査要項……2
2　調査に至る経過と調査方法……2
3　遺跡の位置と環境……3
4　基本層序……4
5　発見遺構と出土遺物……4
6　まとめ……6

Ⅲ　小鶴城跡第５次発掘調査報告

1　調査要項……11
2　調査に至る経過と調査方法……11
3　遺跡の位置と環境……12
4　基本層序……13
5　発見遺構と出土遺物……13
6　まとめ……14

Ⅳ　大野田古墳群第19次発掘調査報告

1　調査要項……16
2　調査に至る経過と調査方法……16
3　遺跡の位置と環境……17
4　基本層序……17
5　発見遺構と出土遺物……18
6　まとめ……19

Ⅴ　南小泉遺跡第63次発掘調査報告

1　調査要項……25
2　調査に至る経過と調査方法……25
3　遺跡の位置と環境……27
4　基本層序……28

5　発見遺構と出土遺物……28
6　まとめ……35

Ⅵ　燕沢遺跡第13次発掘調査報告
1　調査要項……46
2　調査に至る経過と調査方法……46
3　遺跡の位置と環境……47
4　基本層序……47
5　発見遺構と出土遺物……47
6　まとめ……49

Ⅶ　郡山遺跡 ……55

Ⅰ　調査計画と実績

1　調査体制

調 査 主 体　　仙台市教育委員会

調 査 担 当　　文化財課　　課長　田中則和

整備活用係　　主幹兼係長　吉岡恭平　主査　長島栄一　主事　宮田晋、森田賢司

調査係　　係長　佐藤甲二　主査　主濱光朗、斎野裕彦

主事　鈴木隆、小泉博明、森田義史、大久保弥生

文化財教諭　　佐々木匠、菊地貴博、吉野信　臨時職員　千葉恭彦

2　調査計画

主に個人専用住宅の建築に伴う発掘調査費用の補助を目的とし、個人専用住宅他補助対象事業費として、総経費7,686千円、国庫補助金額3,715千円の予算で計画した。発掘調査の実施については、以下の実施計画を立案した。

調査対象地	調査予定地点数	調査予定期間	調査原因
仙台市各区内	28地点	平成21年4月～平成22年1月	個人住宅建築

第１表　調査計画

3　調査実績

今年度の調査実績は、第2表に示したとおりである。調査原因は、全て個人専用住宅の建築である。なお、第2表中で調査次数がついている遺跡については、郡山遺跡を除いて、本書にその成果を掲載している。

NO.	遺跡名	対象面積	調査面積	調査期間	調査次数	届出NO.
1	富沢遺跡	62.08㎡	23㎡	4月15日～4月16日		H21　152-12
2	郡山遺跡	102.68㎡	32.4㎡	4月20日～4月28日	194次	H20　184-288
3	鴻ノ巣遺跡	88.64㎡	24㎡	5月25日～5月27日	12次	H21　152-14
4	四郎丸館跡	75.05㎡	28.8㎡	6月1日～6月2日		H20　184-297
5	南小泉遺跡	70.42㎡	36.5㎡	6月9日～6月10日		H21　152-22
6	郡山遺跡	68.93㎡	20㎡	6月22日～6月24日	195次	H21　152-23
7	洞ノ口遺跡	63.97㎡	25.6㎡	6月29日		H21　152-30
8	河原越遺跡	115.93㎡	33.6㎡	7月6日		H21　152-28
9	一本杉遺跡	1,200㎡	64.8㎡	7月21日		H21　175-5
10	沖野城跡	67.85㎡	31.2㎡	8月3日		H21　152-49
11	堤町B窯跡	84.75㎡	20㎡	9月1日		H21　152-46
12	沖野城跡	79.5㎡	22.5㎡	9月7日		H21　152-66
13	小鶴城跡	177.67㎡	24㎡	9月28日～9月29日	5次	H21　152-94
14	山口遺跡	36.43㎡	18㎡	10月5日		H21　152-73
15	長町六丁目遺跡	80.25㎡	18㎡	10月6日		H21　152-87
16	山田上ノ台遺跡	181.5㎡	36㎡	10月13日～10月14日		H21　152-101
17	人来田遺跡	111.33㎡	23.75㎡	10月19日		H21　152-91
18	大野田古墳群	115.93㎡	41.25㎡	10月19日～10月22日	19次	H21　152-115
19	南小泉遺跡	49.68㎡	28㎡	10月26日～11月13日	63次	H21　152-89
20	南小泉遺跡	49.68㎡	33.8㎡	10月26日～11月13日	63次	H21　152-90
21	燕沢遺跡	39.6㎡	21㎡	11月16日～11月19日	13次	H21　152-95
22	沖野城跡	72㎡	21.44㎡	11月16日		H21　152-100
23	養種園遺跡	55.17㎡	18㎡	11月24日～11月25日		H21　152-112
24	郡山遺跡	103.22㎡	18㎡	11月30日	197次	H21　152-105
25	郡山遺跡	73.25㎡	30㎡	12月2日～12月11日	198次	H21　152-122
26	郡山遺跡	77.01㎡	70㎡	12月14日～12月18日	199次	H21　152-111
27	南小泉遺跡	83.63㎡	22.5㎡	平成22年1月7日～12日		H21　152-154
28	今泉遺跡	65.99㎡	30㎡	1月27日～2月2日		H21　152-145

第２表　調査実績

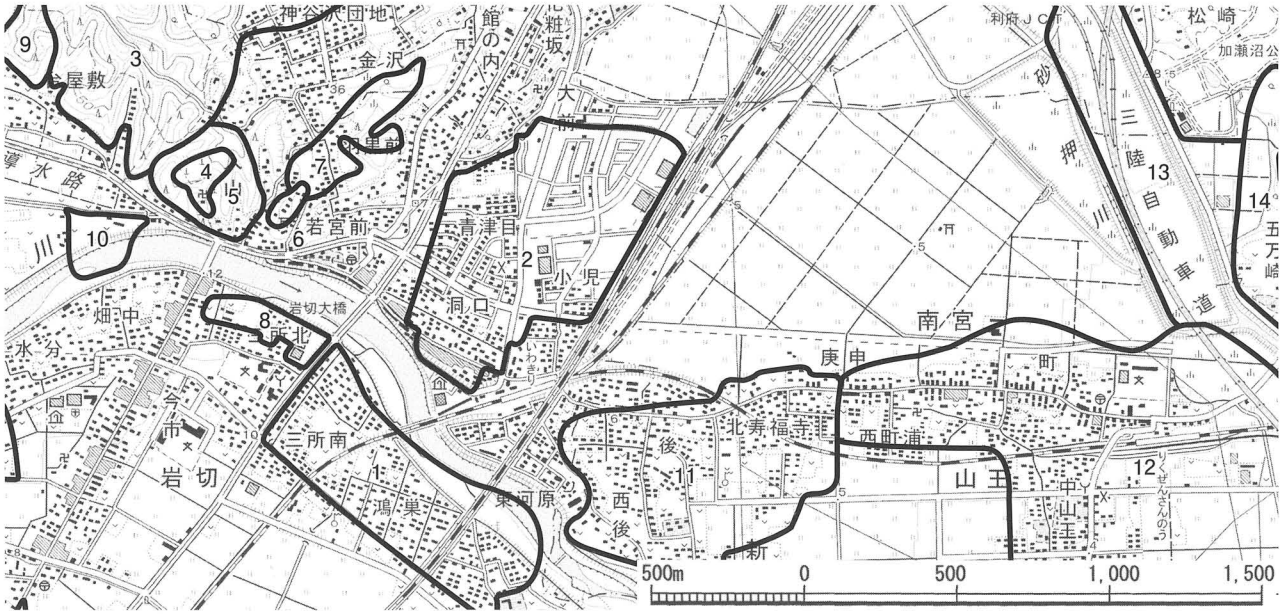
Ⅱ　鴻ノ巣遺跡第12次発掘調査報告

1　調査要項

遺　跡　名	鴻ノ巣遺跡（宮城県遺跡番号01034）
調 査 地 点	仙台市宮城野区岩切字三所北125－28
調 査 期 間	平成21年５月25日～27日
調査対象面積	88.64㎡
調 査 面 積	24㎡
調 査 原 因	個人住宅建築工事
調 査 主 体	仙台市教育委員会
調 査 担 当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査係
担 当 職 員	文化財教諭　佐々木匠　文化財教諭　菊地貴博

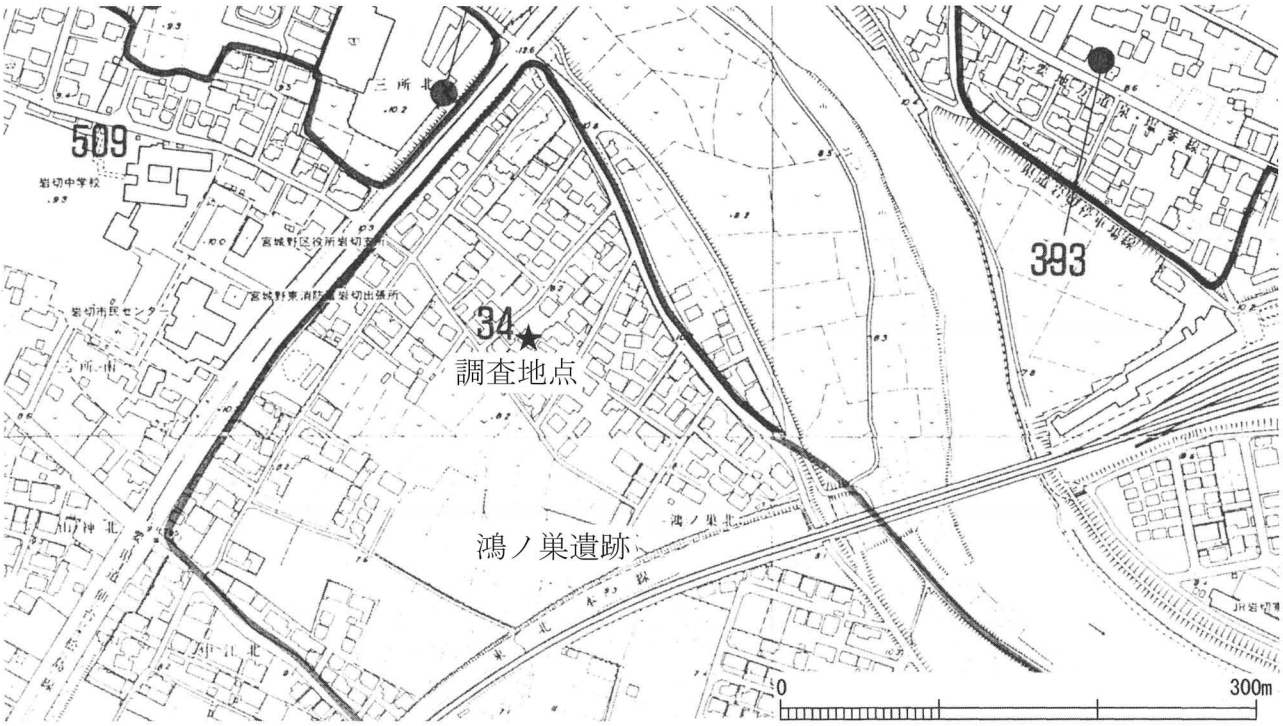
2　調査に至る経過と調査方法

調査は、平成21年４月16日付で、申請者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」に対して、文化財保護法第93条（H21教生文第152－14号で回答）に基づき実施した。調査は、平成21年５月25日



番号	遺跡名	種別	立地	時代	番号	遺跡名	種別	立地	時代
1	鴻ノ巣遺跡	集落、屋敷、水田	自然堤防	弥生～中世	8	今市遺跡	集落、包含地	自然堤防	平安、中世
2	洞ノ口遺跡	集落、城館、屋敷、水田	自然堤防	古墳～近世	9	台屋敷横穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	古墳
3	岩切城跡	城館	丘陵	中世	10	新宿囲遺跡	散布地	自然堤防	平安
4	東光寺板碑群	板碑群	丘陵斜面	中世	11	新田遺跡	集落	自然堤防	古墳、古代、中世
5	東光寺遺跡	城館、石窟仏、寺院、集落、板碑	丘陵斜面	中世	12	山王遺跡	集落	自然堤防	弥生、古墳、古代
					13	市川橋遺跡	官衙関連他	自然堤防他	縄文～中世
6	若宮前遺跡	城館、信仰遺跡	丘陵斜面	縄文、古墳、平安～近世	14	多賀城跡	国府	丘陵	奈良、平安
7	羽黒前遺跡	城館、宗教遺跡	丘陵	中世、近世					

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡



第２図　調査地点位置図

に着手した。対象地内に南北３m×東西８mの調査区を設定し、重機により盛土およびⅠ層を除去した後、Ⅱ層上面において遺構検出作業を実施し、溝跡３条を検出した。遺構調査後、写真・図面により記録した。その後、調査区東部に深堀区を設定し、重機により掘削を行ったところ、Ⅳ層上面において溝跡２条を検出したため、遺構の掘り下げを行い、写真、図面により記録した。その後埋め戻しを行い、調査を終了した。

3　遺跡の位置と環境

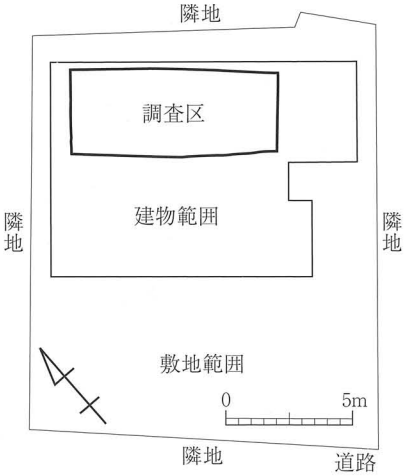
鴻ノ巣遺跡は仙台駅から北東約７km、七北田川右岸の自然堤防上に位置する。標高は約８mである。

遺跡周辺の歴史的環境を見ると、本遺跡の対岸の自然堤防上に古墳時代中期の新田遺跡（多賀城市）がある。ここでは埴輪片も採集されており、付近に高塚古墳があった可能性が考えられている。西側の丘陵地帯には台屋敷横穴墓群などの横穴墓群がある。

古代に入ると、陸奥国の国府である多賀城が本遺跡の東約３kmの丘陵上におかれた。周辺の自然堤防や北西の丘陵地帯には、燕沢遺跡をはじめ、奈良・平安時代の遺跡が多数存在する。

中世の遺跡では、北西の丘陵に国指定史跡である岩切城がある。これは源頼朝によって、多賀城（陸奥国府）留守職に補任された伊沢（留守）家景の構えた館で、代々留守氏の拠点となっていた。麓に留守氏の菩提寺である東光寺があり、その境内には中世の磨崖仏や板碑が多数残されている。

『留守文書』には鎌倉時代の後半、領内に冠屋市場、河原宿五日市場、在家などの記載が見られ、当時七北田川は冠川と呼ばれていたことから、鎌倉時



第３図　調査区配置図

代の七北田川流域における商業活動の営みを知ることができる。また、市の所在地は明確ではないが、付近の洞ノ口遺跡では溝で区画された大規模な屋敷跡などが見つかっており、留守氏との密接な関連性も考えられ、中世における繁栄の様子が明らかになりつつある。鴻ノ巣遺跡でも、これまでの調査で中世の遺構群が検出されており、こうした留守氏に関わる遺構群とともに、この地域一帯を景観として理解していくことが可能となっている。

4　基本層序

基本層は、大別４層、細別５層確認された（第５図）。Ⅰ層は層厚は15～55cmで、色調により２層に分けられる。Ⅱ層は層厚10～25cmの黒色粘土質シルト層、Ⅲ層は層厚５～13cmの黒褐色粘土質シルト層である。Ⅳ層は層厚14cm以上のにぶい黄橙色砂質シルト層である。なお、調査地点には47～64cmの盛土がある。

5　発見遺構と出土遺物

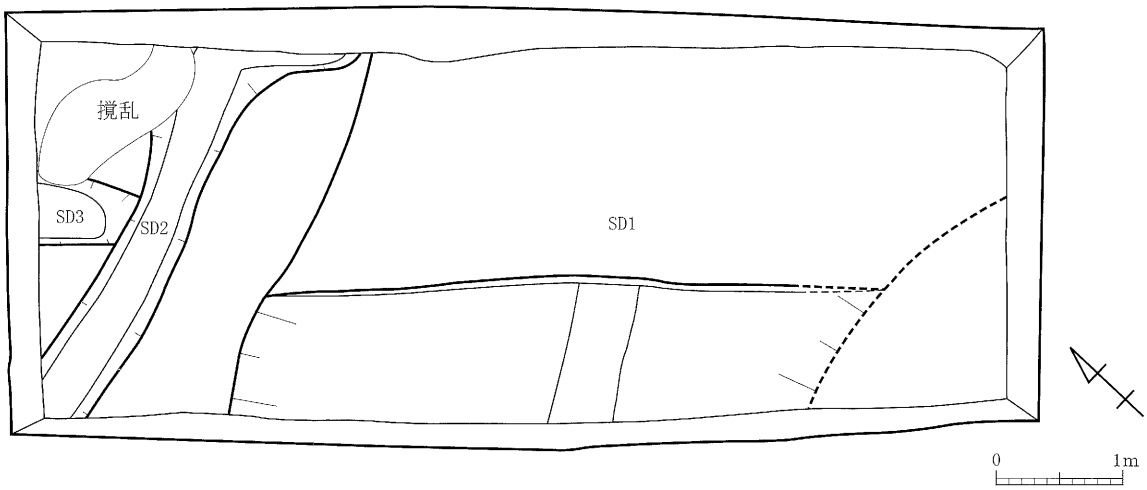
(1)　Ⅱ層上面検出遺構

１）溝跡

ＳＤ１溝跡　調査区中央部で検出した。全体の方向はほぼ南西～北東方向であるが、調査区北側で東に向かって拡がる様相が見られる。検出長は約3.2mで、さらに調査区外へ延びる。上端幅約3.6～4.0m、下端幅約50cm、深さ約85cmである。断面形はU字形を呈し、堆積土は４層である。なお、溝跡の東側上端については明瞭に検出されなかったため、調査区東部を一部掘り下げ、南壁において溝跡の断面を検討し、平面図を作成した。出土遺物は１層中より土師器片10点、須恵器片４点、中世陶器片４点、３層中より須恵器片３点、中世陶器片３点、砥石１点が出土している。中世陶器のうち、甕口縁部資料（第７図５）が常滑窯の編年５～６a型式にあたることから13世紀代の年代（中野2005）が考えられる。

ＳＤ２溝跡　調査区西側で検出した。南西～北東方向の溝跡である。ＳＤ３溝跡と新旧関係があり、ＳＤ３溝跡より新しい。検出長は3.3mで、さらに調査区外へ延びる。上端幅約55cm、下端幅約35cm、深さ約20cmである。断面形はU字形を呈し、堆積土は単層である。出土遺物は土師器片が56点、常滑産陶器が１点、堆積土中から出土している。

ＳＤ３溝跡　調査区西側で検出した。北西～南東方向の溝跡である。ＳＤ２溝跡と新旧関係があり、ＳＤ２溝跡より古い。検出長は70cm、上端幅約60cm、下端幅約40cm、深さ約18cmである。断面形はU字形を呈し、堆積土は単層である。出土遺物はない。

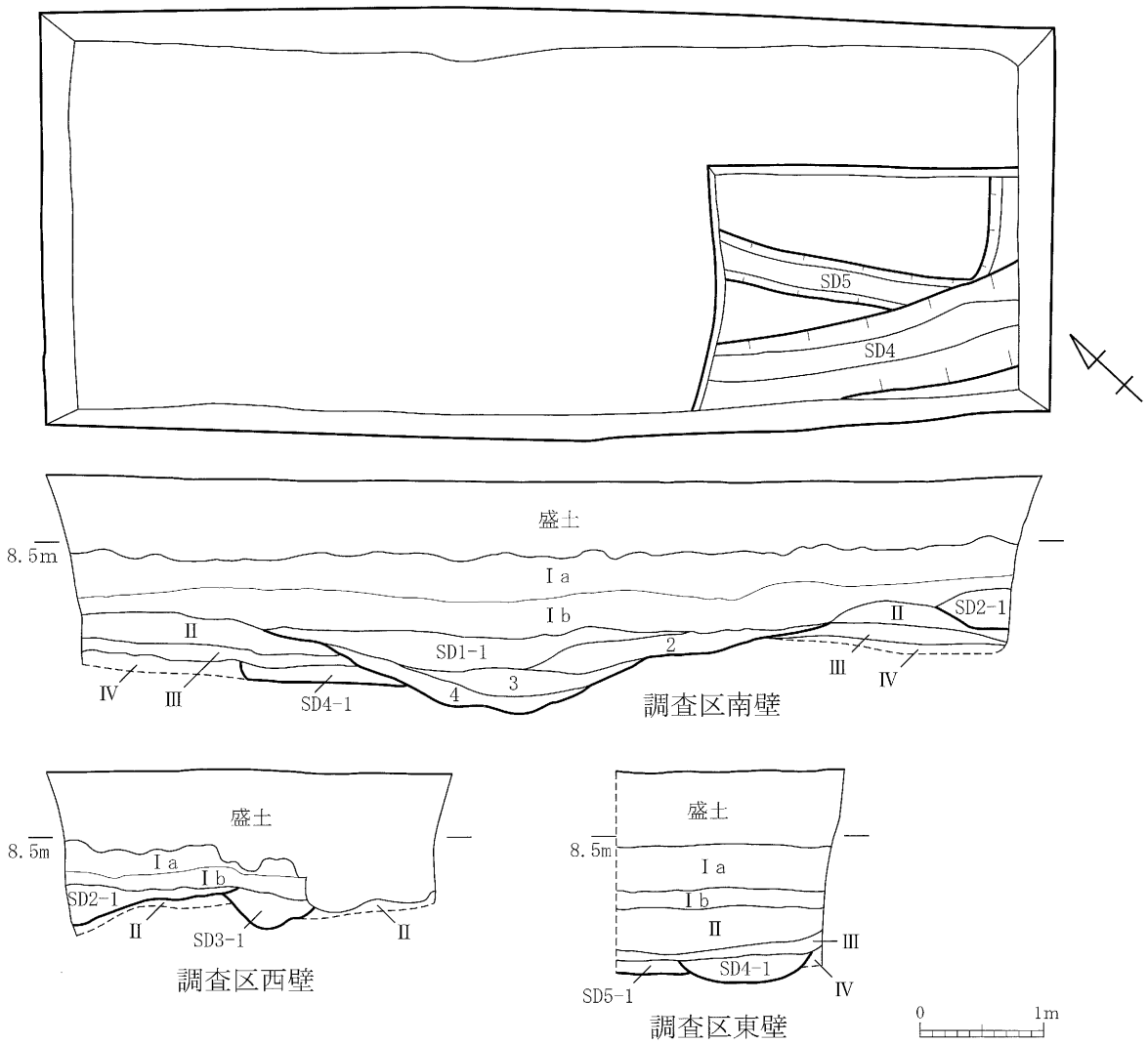


第４図　Ⅱ層上面検出遺構平面図

(2)　Ⅳ層上面検出遺構

1）溝跡

ＳＤ４溝跡　調査区東部で検出した。東西方向の溝である。ＳＤ５溝跡と新旧関係があり、ＳＤ５溝跡より新しい。検出された溝の全長は約2.5m、上端幅約60～90cm、下端幅約20cmである。断面形は皿状で、堆積土は単層である。出土遺物はない。



基本層	土　色	土　性	備　考
Ⅰa	10YR４/２灰黄褐色	砂質シルト	
Ⅰb	10YR３/２黒褐色	砂質シルト	酸化鉄を微量含む。
Ⅱ	10YR４/４褐色	砂質シルト	酸化鉄を多量含む。
Ⅲ	10YR３/１黒褐色	粘土質シルト	酸化鉄を多量含む。
Ⅳ	10YR６/３にぶい黄橙色	砂質シルト	酸化鉄を多量含む。

遺構	堆積土	土　色	土　性	備　考
SD１	１	10YR４/２灰黄褐色	砂質シルト	
	２	10YR３/２黒褐色	砂質シルト	酸化鉄を微量含む。
	３	10YR４/１褐灰色	シルト質粘土	酸化鉄を多量含む。
	４	10YR５/１褐灰色	シルト質粘土	酸化鉄を多量含む。下部グライ化（５Ｂ５/１）。
SD２	１	10YR３/１黒褐色	砂質シルト	
SD３	１	10YR４/２灰黄褐色	砂質シルト	
SD４	１	10YR４/１褐灰色	砂質シルト	酸化鉄を多量含む。
SD５	１	10YR６/１褐灰色	砂質シルト	酸化鉄を多量含む。

第５図　Ⅳ層上面検出遺構平面図および調査区断面図

ＳＤ５溝跡　調査区東側で検出した。調査区東壁際で南北方向に伸び、東西方向に折れ曲がる。ＳＤ４溝跡と新旧関係があり、ＳＤ４溝跡より古い。規模は上端幅約35cm、下端幅約20cm、深さ約１cmである。断面形は皿状で、堆積土は単層である。出土遺物はない。

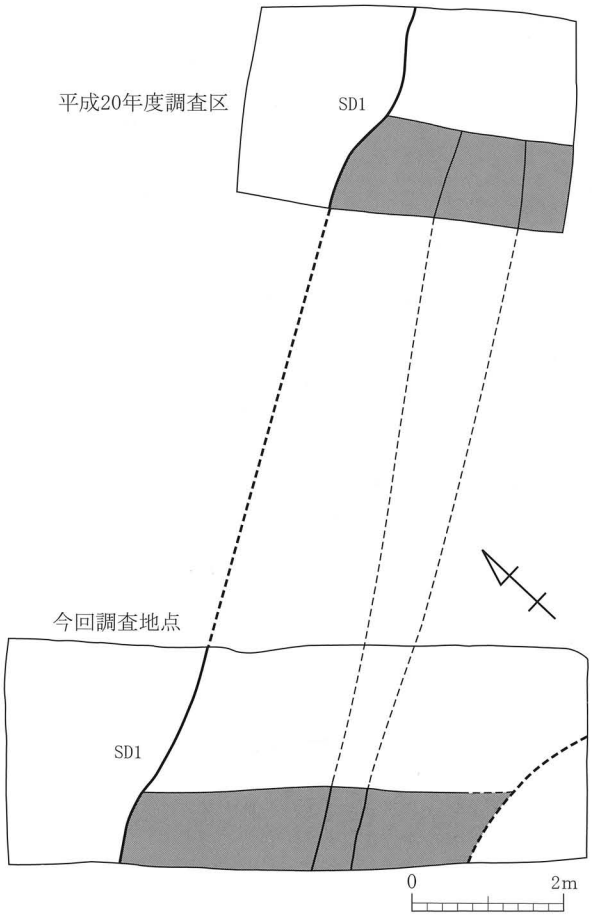
6　まとめ

①今回の調査では、Ⅱ層上面において溝跡３条（ＳＤ１～３）、Ⅳ層上面において溝跡２条（ＳＤ４・５）を検出した。

②ＳＤ１溝跡は、平成20年度に北側隣接地の確認調査で検出されたＳＤ１溝跡の南延長部分であり、この溝は南北方向にさらに延びる可能性がある。堆積土中から土師器片や須恵器片、中世陶器片が出土し、平安～中世の時期が考えられるが、詳細な時期については不明である。

③ＳＤ２溝跡からはロクロ土師器片が一定量出土したが、詳細な時期については不明である。

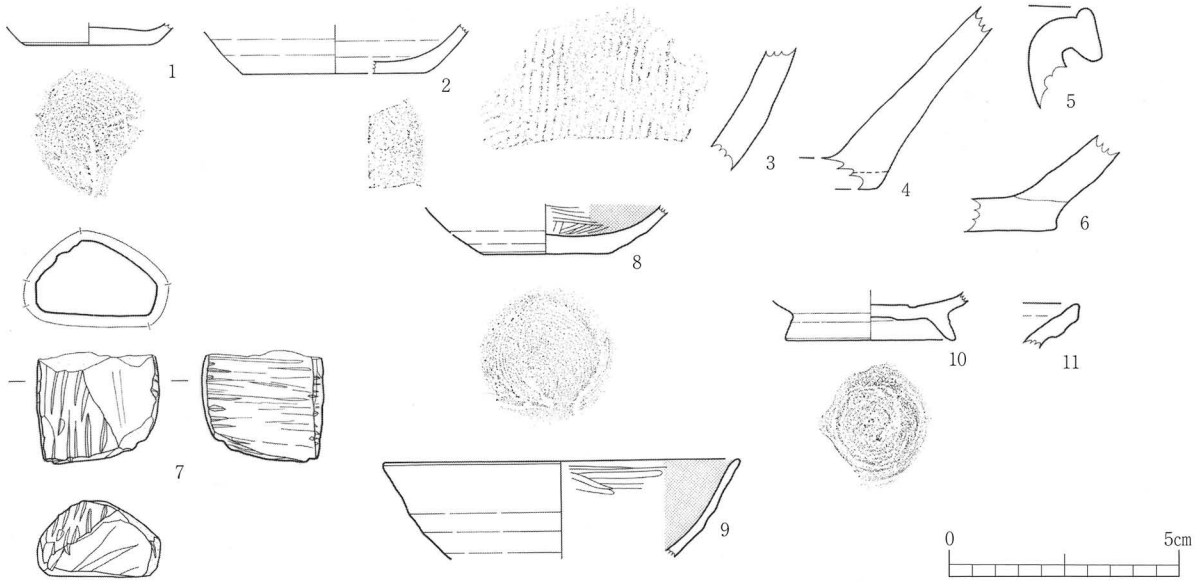
④ＳＤ４溝跡、ＳＤ５溝跡はⅣ層上面において検出されたが、出土遺物はなく、時期、性格とも不明である。



第６図　ＳＤ１溝跡平面図（平成20年度・今回調査区）

参考文献

仙台市教育委員会2004「鴻ノ巣遺跡第７次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第280集
仙台市教育委員会2009「Ｖ鴻ノ巣遺跡発掘調査報告書」『仙台平野の遺跡群ＸⅨ』仙台市文化財調査報告書第346集
中野晴久2005「常滑・渥美」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』全国シンポジウム発表要旨集



第７図　ＳＤ１、ＳＤ２溝跡出土遺物（ＳＤ１：１～７、ＳＤ２：８～11）

1　Ⅱ層上面遺構検出全景（東から）

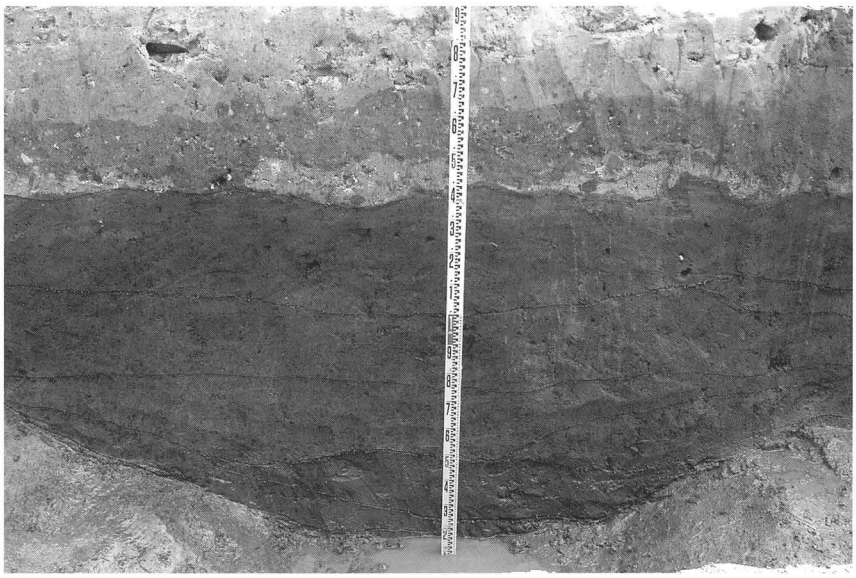
2　ＳＤ２溝跡完掘状況（南から）

3　調査区西側南壁断面（北から）

図版１　Ⅱ層上面検出遺構および調査区断面図(1)

1　Ⅱ層上面遺構全景（東から）

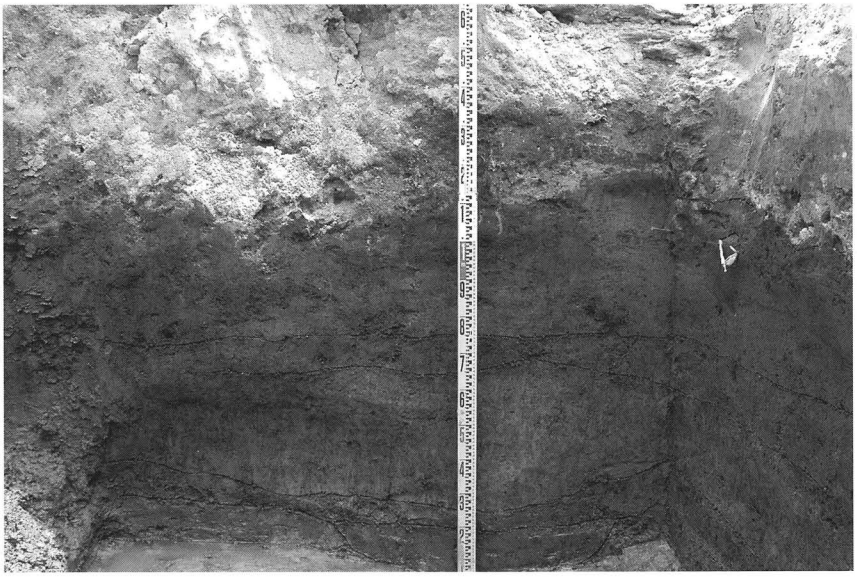
2　ＳＤ１溝跡調査区南壁断面
（北西から）



3　ＳＤ１溝跡調査区南壁断面（北から）

図版２　　Ⅱ層上面検出遺構および調査区断面図(2)

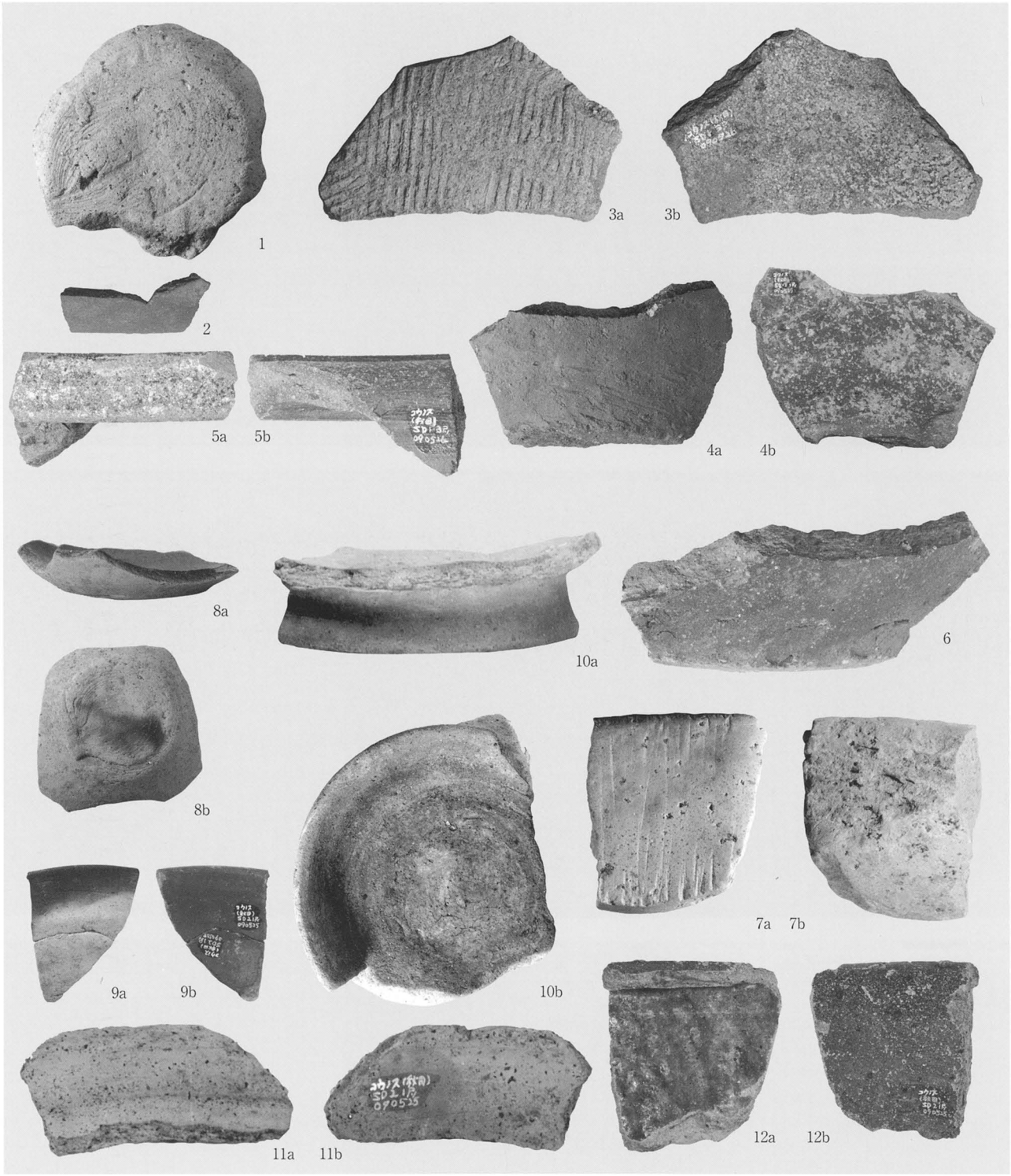
1　深掘区Ⅳ層上面遺構検出状況
（東から）



2　調査区東壁断面（西から）

3　調査区南壁東側断面（北から）

図版３　Ⅳ層上面検出遺構および調査区断面



図中番号	登録番号	遺構名	出土層位	種　別	器　種	法　量　(cm)			備　　考	写真図版
						器高	口径	底径		
						長さ	幅	厚さ		
7－1	D－1	SD1	1	ロクロ土師器	坏	(0.9)	—	5.6	外面:ロクロナデ　底部回転糸切り	4－1
7－2	E－1	SD1	1	須恵器	坏	(2.0)	—	—	内面:ロクロナデ　外面:ロクロナデ、底部ヘラ切り	4－2
7－3	E－2	SD1	3	須恵器	甕	—	—	—	外面:タタキ	4－3
7－4	I－1	SD1	1	陶器	甕	—	—	—	常滑	4－4
7－5	I－2	SD1	3	陶器	甕	—	—	—	常滑5～6a型式	4－5
7－6	I－3	SD1	3	陶器	甕	—	—	—	外面:胴下部ナデ、常滑	4－6
7－7	K－1	SD1	3	石製品	砥石	(4.8)	5.3	3.3	重量:11.36g　溝状痕あり	4－7
7－8	D－2	SD2	1	ロクロ土師器	坏	(2.1)	—	5.6	内面:ヘラミガキ、黒色処理、外面:ロクロナデ、底部回転糸切り	4－8
7－9	D－3	SD2	1	ロクロ土師器	坏	(4.2)	(15.3)	—	内面:ヘラミガキ、黒色処理　外面:ロクロナデ	4－9
7－10	D－4	SD2	1	ロクロ土師器	高台坏	(2.1)	—	7.5	外面:ロクロナデ　底部回転ヘラ切り	4－10
7－11	D－5	SD2	1	ロクロ土師器	甕	—	—	—	内外面:ロクロナデ	4－11
	I－4	SD2	1	陶器	甕	—	—	—	常滑4～5型式か	4－12

図版4　出土遺物

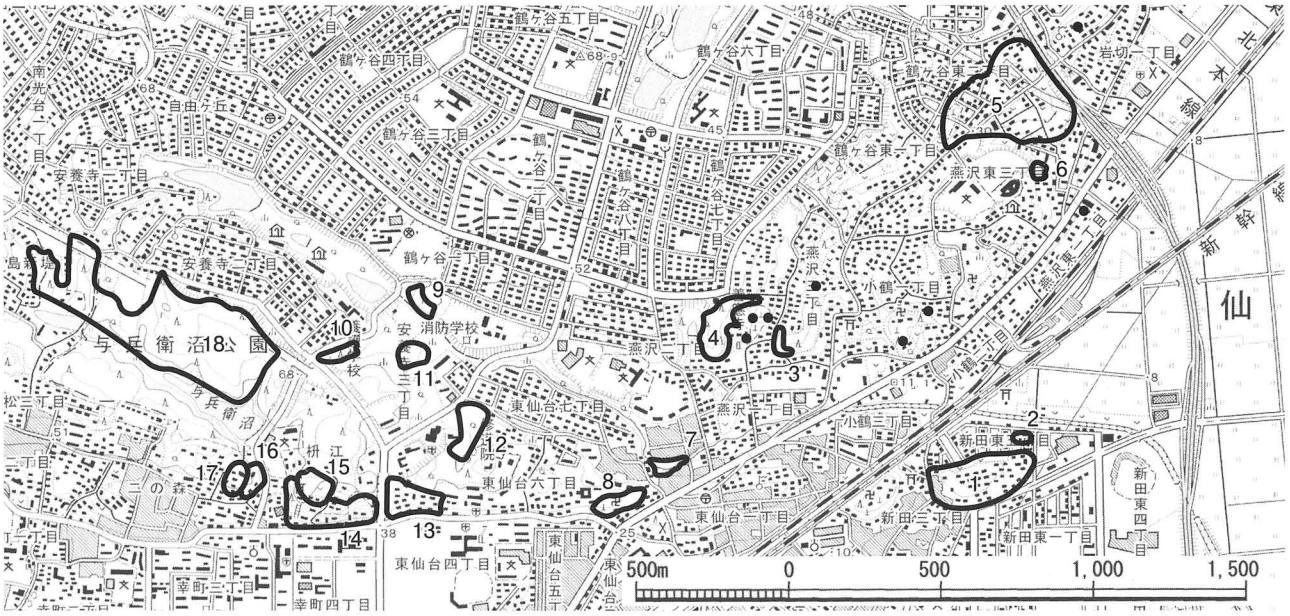
Ⅲ　小鶴城跡第５次発掘調査報告

１　調査要項

遺　跡　名	小鶴城跡（宮城県遺跡番号01194）
調 査 地 点	仙台市宮城野区新田三丁目44－１、45－１の一部
調 査 期 間	平成21年９月28日～29日
調査対象面積	177.67㎡（敷地面積1007.54㎡）
調 査 面 積	24㎡
調 査 原 因	個人住宅建築工事
調 査 主 体	仙台市教育委員会
調 査 担 当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査係
担 当 職 員	文化財教諭　佐々木匠　文化財教諭　菊地貴博

２　調査に至る経過と調査方法

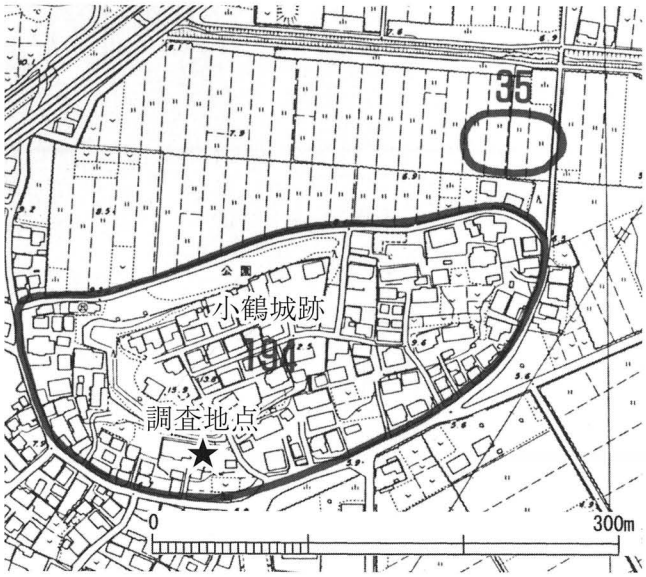
調査は、平成21年８月24日付で、申請者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」に対して文化財保護法第93条（H21教生文第152－94号で回答）に基づき実施した。確認調査は平成21年９月28日



番号	遺跡名	種別	立地	時代	番号	遺跡名	種別	立地	時代
1	小鶴城跡	城館	丘陵	中世	10	安養寺配水場前窯跡	窯跡	丘陵斜面	奈良、平安
2	小鶴遺跡	散布地	自然堤防	平安	11	安養寺囲瓦窯跡	窯跡	丘陵斜面	平安
3	善応寺東横穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	古墳	12	安養寺下瓦窯跡	窯跡	丘陵斜面	奈良、平安
4	善応寺横穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	古墳	13	小田原前田窯跡	窯跡	丘陵斜面	奈良
5	燕沢遺跡	散布地、集落、寺院	丘陵	縄文～平安	14	神明社窯跡	窯跡	丘陵斜面	奈良、平安
6	吉沢遺跡	散布地	丘陵	平安	15	神明社裏遺跡	散布地	丘陵	奈良、平安
7	燕沢公園窯跡	窯跡	丘陵斜面	古墳、奈良	16	二の森窯跡	窯跡	丘陵斜面	平安
8	大蓮寺窯跡	窯跡	丘陵斜面	古墳、奈良	17	二の森遺跡	散布地	丘陵斜面	平安
9	安養寺中囲瓦窯跡	窯跡	丘陵斜面	奈良、平安	18	与兵衛沼窯跡	窯跡	丘陵斜面	奈良、平安、近世

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡

に着手した。調査区は南北7.5m×東西３mに設定した。重機により盛土、表土を除去し、Ⅰ層上面において遺構検出作業を行ったところ、溝跡１条を検出した。検出面はすでに地表面から1.3mの深さであり、今回の個人住宅建築工事に伴う掘削深度は地表面から1.5mという計画であるため、遺構の掘り下げは溝跡の西側部分で行い、その後、断面および平面について写真・図面で記録を取り、調査を終了した。調査終了後、埋め戻しを行った。



第２図　調査地点位置図

3　遺跡の位置と環境

小鶴城跡は、後背湿地に突き出した舌状丘陵に立地する。かつて、城跡の南側一帯は小鶴沼が広がっていたといわれ、その南を東西に小鶴川が流れていた。しかし、小鶴沼は、江戸時代中期に大部分が水田化されている。城跡の西側には、戦国期の幹線道路である「東街道」が通っていたと考えられている。城跡頂部の標高は約16mで、周囲の水田との比高差は約11mである。これまでの発掘調査では、主に城跡の北東部および北西部において堀跡が確認されている。特に北東部の堀跡は、上幅６m以上、深さ2.6mと大規模なものであることが判明している。また平成21年度に実施した第４次調査（平成22年度報告書刊行予定）では、殿上山と呼ばれる城跡の頂部付近で、大規模な整地の痕跡と掘立柱建物跡群が検出されている。

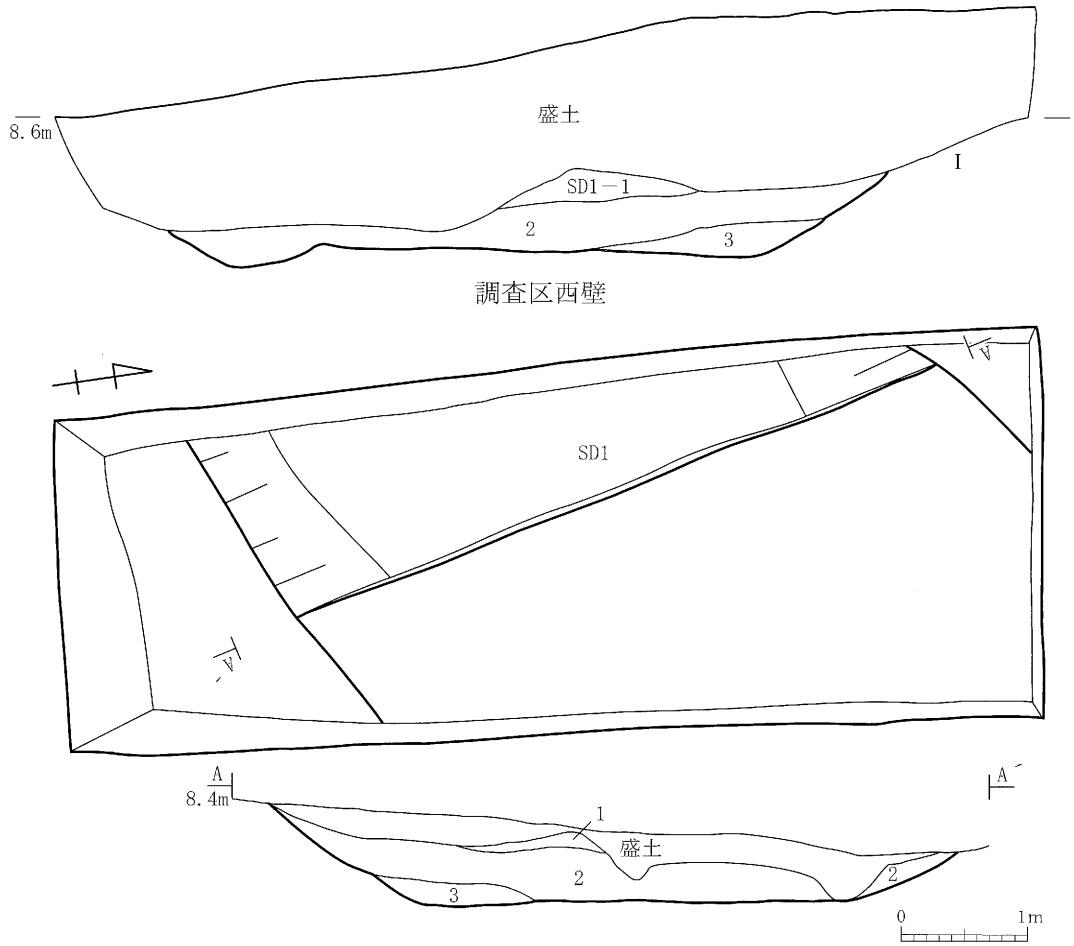
第３図　調査区配置図

4　基本層序

厚さ90cm～140cmの盛土直下で、暗褐色の凝灰岩を主とした基盤岩層が検出され、Ⅰ層とした。基本層Ⅰ層は、ＳＤ１溝跡の底面や肩の部分においてグライ化している。

5　発見遺構、出土遺物

Ⅰ層上面で溝跡１条を検出した。



基本層	土　　色	土　　性	備　　考
Ⅰ	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	凝灰岩粒を少量含む。

遺構名	堆積土	土　　色	土　　性	備　　考
ＳＤ１	1	10YR3/1黒褐色	粘　土	
	2	10YR2/1黒色	粘　土	
	3	10YR5/1褐灰色	砂質シルト	黒褐色(10YR3/1)シルトブロックを含む。

第４図　Ⅰ層上面検出遺構平面図・断面図

(1)　Ⅰ層上面検出遺構

１）溝跡

ＳＤ１溝跡　調査区中央部で検出した。方向は南西～北東、規模は上端幅5.5m、下端幅3.9m、深さ15～70cmである。

断面形はU字形で、堆積土は３層である。遺物は出土していない。

6　まとめ

①調査区は、小鶴城跡の南側で、標高は８ｍ～９ｍ付近に位置し、堀跡と考えられる幅5.5mのSD１溝跡を検出した。遺物は出土せず、詳細な時期については不明である。

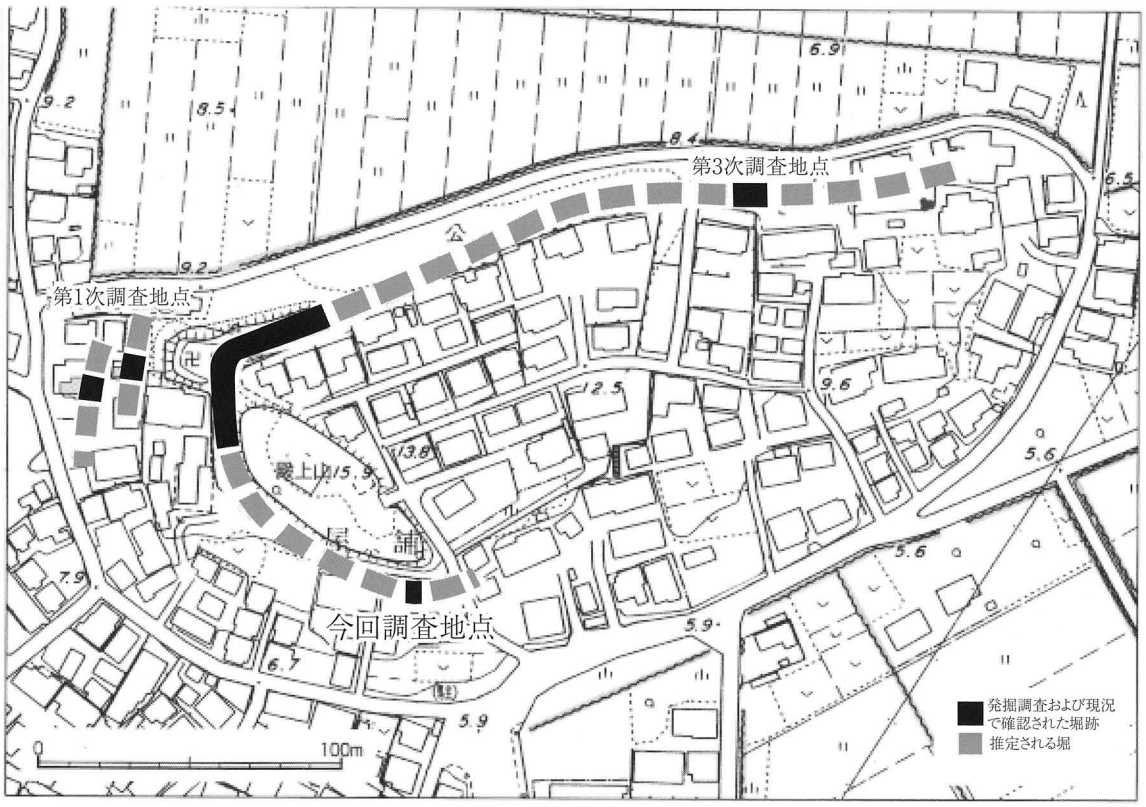
②これまでの調査で、小鶴城跡の堀跡は三重にめぐることが明らかにされており（第５図）、ＳＤ１溝跡は位置的にみて最も内側の堀跡の一部と考えられる。

参考文献

仙台市教育委員会2002「１　小鶴城跡」『小鶴城跡ほか』仙台市文化財調査報告書第261集

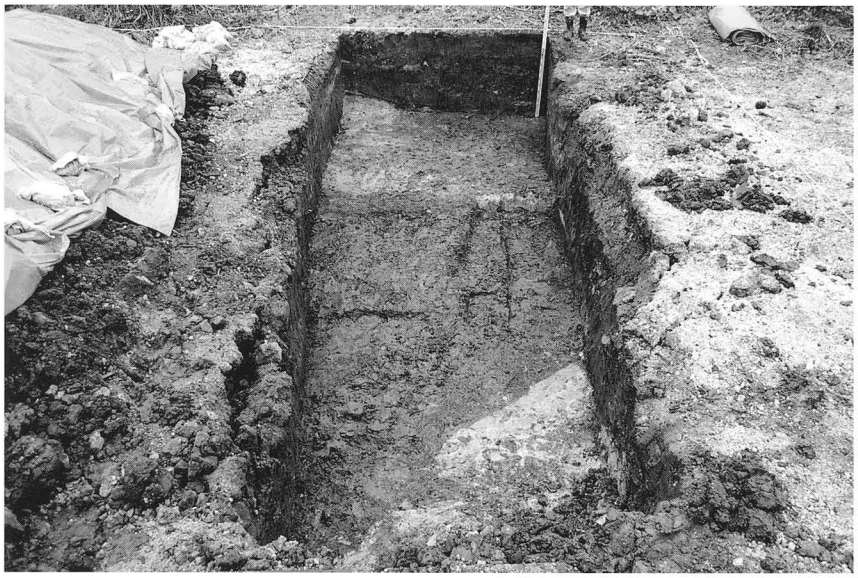
仙台市教育委員会2009「Ⅶ　小鶴城跡第３次調査報告書」『山口遺跡他』仙台市文化財調査報告書第345集

仙台市史編さん委員会2006「小鶴城跡」『仙台市史　特別編７　城館』



第５図　小鶴城跡全体図
（『仙台市史　特別編7城館』P.46「小鶴城跡遺構配置図」に加筆修正）

1　調査区西壁断面（南東から）



2　ＳＤ１溝跡検出全景（南から）

3　ＳＤ１溝跡一部完掘状況（南から）

図版１　ＳＤ１溝跡および調査区全景・断面

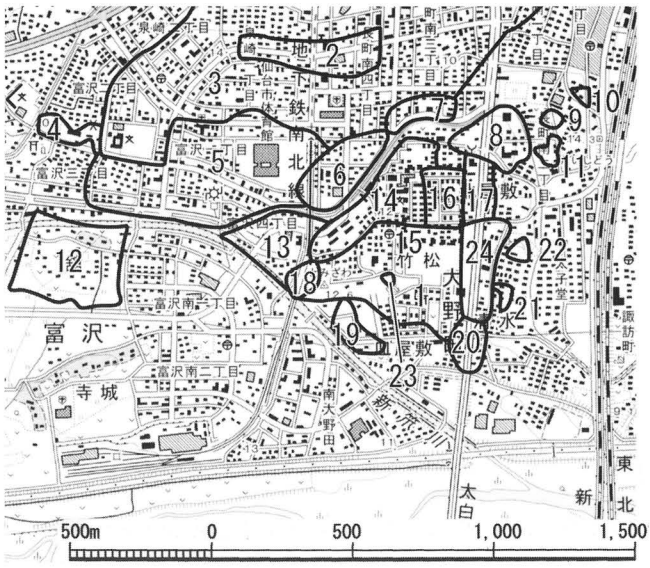
Ⅳ　大野田古墳群第19次発掘調査報告

1　調査要項

遺　跡　名　　大野田古墳群（宮城県遺跡番号01361）
調 査 地 点　　仙台市太白区大野田字宮脇19の一部、20－１の一部、20－３の一部、20－５の一部、21の一部
調 査 期 間　　平成21年10月19日～22日
調査対象面積　　115.93㎡（敷地面積333㎡）
調 査 面 積　　41.25㎡
調 査 原 因　　個人住宅建築工事
調 査 主 体　　仙台市教育委員会
調 査 担 当　　仙台市教育局生涯学習部文化財課調査係
担 当 職 員　　主査　平間亮輔　　主事　大久保弥生　　文化財教諭　川本剛史

2　調査に至る経過と調査方法

調査は、平成21年10月７日付けで、申請者より提出された個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」に対して文化財保護法第93条（H21教生文第152－115号で回答）に基づき実施した。確認調査は、平成21年10月19に着手した。対象地内に南北３ｍ×東西10ｍの調査区を設定した。Ⅰ・Ⅱ層を重機により除去し、Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ層上面でそれぞれ遺構確認を行った。Ⅴ層上面で古墳の周溝が検出されたため、申請者の了解を得て調査区西半の南側に3.5ｍ×3.5ｍ拡張し、引き続き本調査を実施することとなった。遺構掘り下げ後、断面、平面について写真・図面で記録した後、調査を終了した。調査終了後、重機により転圧をかけながら埋め戻しを行った。

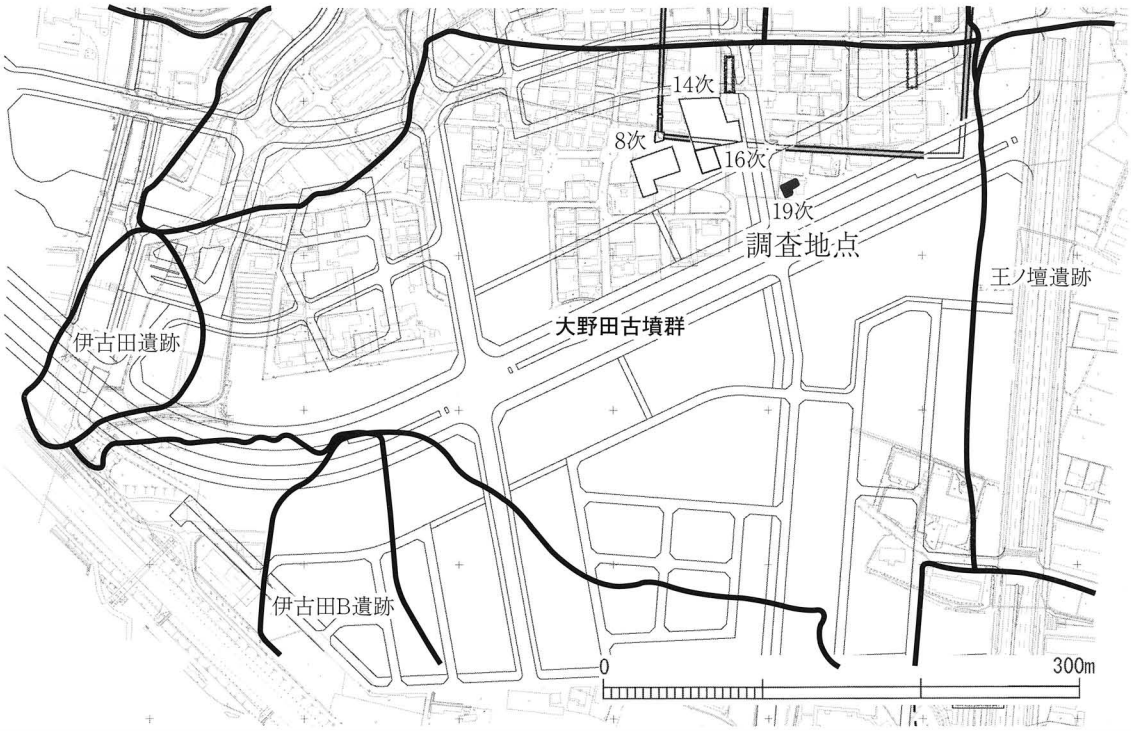


番号	遺跡名	種　別	立　地	時　代
1	大野田古墳群	円墳	自然堤防	古墳
2	泉崎浦遺跡	集落跡、水田跡、墓跡	自然堤防、後背湿地	縄文～古墳・平安、近世
3	富沢遺跡	包含地、水田跡	後背湿地	後期旧石器～近世
4	富沢清水遺跡	散布地	自然堤防	奈良、平安
5	山口遺跡	集落跡、水田跡	自然堤防、後背湿地	縄文早・中～晩、弥生中、古墳～中世
6	下ノ内浦遺跡	集落跡、水田跡	自然堤防	縄文早・前・後、弥生～中世
7	袋東遺跡	散布地	自然堤防	古墳、奈良、平安
8	元袋遺跡	集落跡、水田跡	自然堤防	弥生、奈良～近世
9	長町南遺跡	散布地	自然堤防	奈良、平安
10	長町六丁目遺跡	散布地	自然堤防	奈良、平安
11	新田遺跡	散布地	自然堤防	奈良、平安
12	富沢館跡	城館跡	自然堤防	中世
13	下ノ内遺跡	集落跡	自然堤防	縄文中～晩、弥生、中世
14	六反田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文中～晩、弥生～平安、近世
15	大野田官衙遺跡	官衙	自然堤防	奈良、平安
16	袋前遺跡	集落跡	自然堤防	縄文、奈良、平安
17	大野田遺跡	祭祀、集落跡	自然堤防	縄文後、弥生中、古墳～平安
18	伊古田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文後、古墳～平安
19	伊古田B遺跡	散布地	自然堤防	古墳、奈良、平安
20	皿屋敷遺跡	集落跡、屋敷跡	自然堤防	奈良～中世
21	長町清水遺跡	散布地	自然堤防	古墳
22	北屋敷遺跡	散布地	自然堤防	奈良、平安
23	春日社古墳	円墳	自然堤防	古墳中
24	王ノ壇遺跡	集落跡、屋敷跡	自然堤防	縄文後、弥生～中世

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡

3　遺跡の位置と環境

大野田古墳群は、仙台市太白区大野田に所在し、地下鉄富沢駅の東側に位置している。遺跡は、名取川下流域左岸の自然堤防上の微高地に立地し、その範囲は、東西約600m、南北約400mおよび、標高は10～12mである。大野田古墳群は、個人住宅建築、共同住宅建築工事、市関連施設建築工事に伴う調査のほか、平成６年度以降「富沢駅周辺土地区画整理事業」の道路建設工事等に伴う調査が継続的に実施され、これまでに18次に及ぶ調査が行われている。大野田古墳群は、縄文時代および古墳時代から中世にかけての複合遺跡で、主体となる古墳は古墳時代中期から後期に属する。平成20年度まで、春日社古墳・鳥居塚古墳・王ノ壇古墳・五反田古墳のほか、大野田１～39号墳が調査され、検出された古墳総数は43基を数える。今回の調査は個人住宅建築に伴うもので、第19次にあたる。

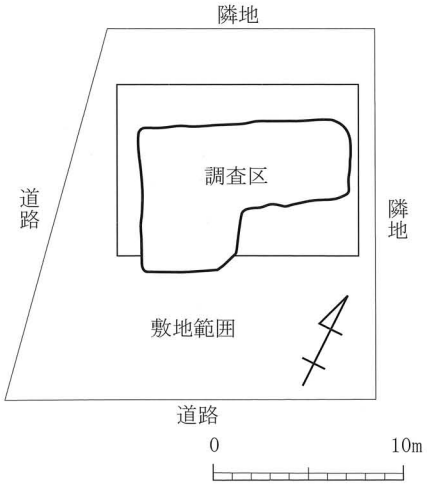


第２図　調査地点位置図

4　基本層序

基本層は大別６層、細別９層確認した。Ⅰ層は表土で、層厚は４～34cmである。色調により３層に分けられる。Ⅱ層は層厚３～13cmの黒色粘土質シルト層である。Ⅲ～Ⅴ層は、古墳時代から古代の遺構が検出される層である。Ⅲ層は層厚33cm で、色調により２層に分けられる。Ⅲa層は黄橙色シルト土層、Ⅲb層は明黄褐色シルト土層である。Ⅳ層は層厚２～16cm の暗褐色シルト土層である。Ⅴ層はにぶい黄橙色砂質シルト土層である。古墳周溝の東側にのみ、Ⅳ層とⅤ層の間に層厚10～16cmで黒褐色シルト土層のＡ層が確認される。Ａ層については後述する。

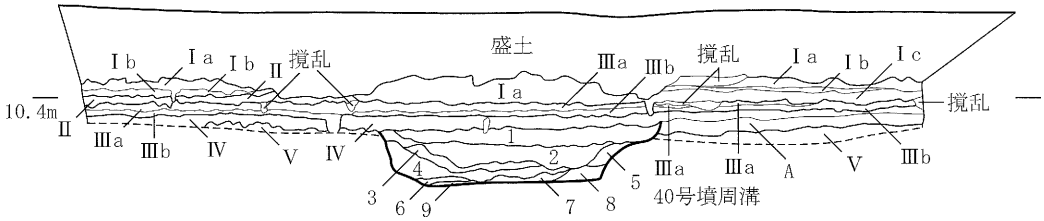
なお、調査地点には60～90cmの盛土がある。



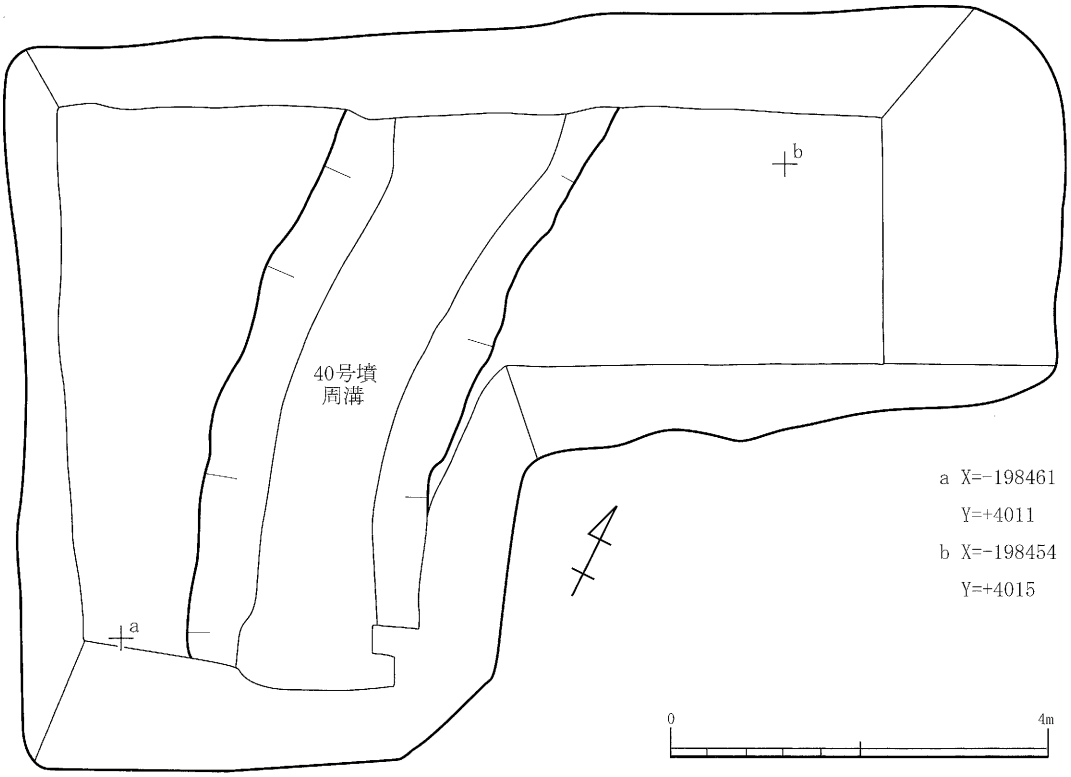
第３図　調査区配置図

5　発見遺構と出土遺物

Ⅴ層上面において、古墳の周溝を検出した。大野田古墳群では、春日社古墳・鳥居塚古墳・王ノ壇古墳・五反田古墳のほか、１～39号墳までの古墳が発見されている。今回の調査において、新たに１基の古墳が検出され、これを大野田40号墳とした。



調査区北壁



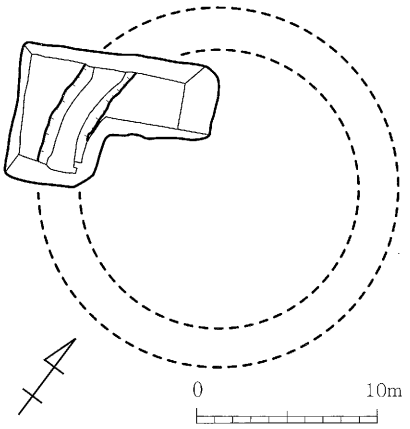
層　位	土　色	土　性	備　考
Ⅰa	N7/0灰白色	粘土	
Ⅰb	N8/0灰白色	粘土	
Ⅰc	N4/0灰色	粘土	
Ⅱ	N2/0黒色	粘土質シルト	
Ⅲa	10YR7/8黄橙色	シルト	
Ⅲb	10YR6/8明黄褐色	シルト	
Ⅳ	7.5YR3/3暗褐色	シルト	
Ⅴ	10YR6/4にぶい黄橙色	砂質シルト	
A	10YR3/2黒褐色	シルト	周溝東側にのみ分布。
大野田40号墳周溝堆積土	土　色	土　性	備　考
1	10YR3/1黒褐色	粘土質シルト	
2	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	
3	10YR4/1褐灰色	粘土質シルト	
4	2.5Y4/2暗灰黄色	シルト	
5	10YR3/2黒褐色	シルト	
6	2.5Y4/2暗灰黄褐色	砂質シルト	10YR3/1黒褐色シルトブロック(径3～5cm)を全体に多く含む。
7	2.5Y4/3オリーブ褐色	砂質シルト	10YR3/1黒褐色シルトブロック(径2cm)を全体に少量含む。
8	10YR5/3にぶい黄褐色	砂質シルト	
9	10YR6/4にぶい黄橙色	砂質シルト	

第４図　Ⅴ層上面検出遺構平面図・断面図

(1)　Ⅴ層上面検出遺構

大野田40号墳　南北に伸びる周溝の一部を検出した。検出長は6.3mである。墳丘は、調査区東側にあったと推定されるが、削平されており残存していない。

周溝の上端幅は、2.3～2.5mである。下端幅は1.13～1.52mを計り、北側でやや広い。断面形は、逆台形である。底面は平坦で、外縁は急に立ち上がり、内縁は外縁よりもやや緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは、56～60cmである。堆積土は9層に細分される自然堆積層である。検出された周溝の形状から古墳を復元すると、周溝内縁径は約15.5m、外縁径約20mの円墳と推定される。



第5図　大野田40号墳周溝想定図

遺物は、周溝堆積土から石器3点、縄文土器221点、土師器片2点、円筒埴輪片81点が出土した。そのうち、円筒埴輪3点（第6図1～3）、縄文土器10点（第6図5～9、第7図1～4）、石器3点（第6図11～13）を図示した。第6図1は円形のスカシ孔上部の破片である。体部の外面調整はタテハケ、内面調整はヨコナデである。第6図2・3は、突帯部である。2の突帯は上幅0.9cm、下幅は2cm、高さ0.7cmで、断面形は台形を呈し、やや下方に垂れている。3の突帯は上幅0.9cm、下幅1.8cm、高さ0.8cmで、断面形は台形を呈し、やや上方に向いている。縄文土器10点のうち、第6図5～9、第7図3は、後期中葉の宝ヶ峯式土器（斎藤報恩会1991）である。第6図5～9は、波状口縁をなす深鉢口縁部破片で、口縁直下に沈線が1条施文され、第5図5～8は口唇との間は刻目、第6図9はＬＲ縄文で充填されている。第7図3は、平坦口縁をなす深鉢であり、外面には磨消縄文によって「Ｌ」字状の文様などが施文されている。他の土器は、時期が明確でないが、宝ヶ峯式土器の可能性がある。第6図11、12は二次加工のある剥片で、第6図13は石鏃の未製品と考えられる。

(2) 遺構外出土遺物

基本層Ⅳ層から縄文土器片4点、円筒埴輪片24点が出土している。そのうち、埴輪片1点を図示した。第6図4は、円筒埴輪の基部破片である。外面調整はタテハケ、内面調整はヨコナデである。基部の端部は、ユビオサエによって成形されている。また、基本層Ⅳ層から縄文土器片2点が出土した。第6図10は、深鉢の口縁部から胴部破片である。地文はＬＲ縄文である。

6　まとめ

①大野田古墳群の古墳が新たに1基確認され、大野田40号墳とした。古墳群の古墳総数は44基になった。

②検出された周溝から古墳を復元すると、外縁径約20mの円墳と推定される。

③基本層Ａ層は、周辺の調査における基本層とは層相が異なるものであり、大野田40号墳の墳丘にあたる部分にのみ分布することから、古墳築造前の表土、あるいは耕作土である可能性がある。Ａ層の理解やその分布については、周辺の調査成果と合わせて、今後検討する必要がある。

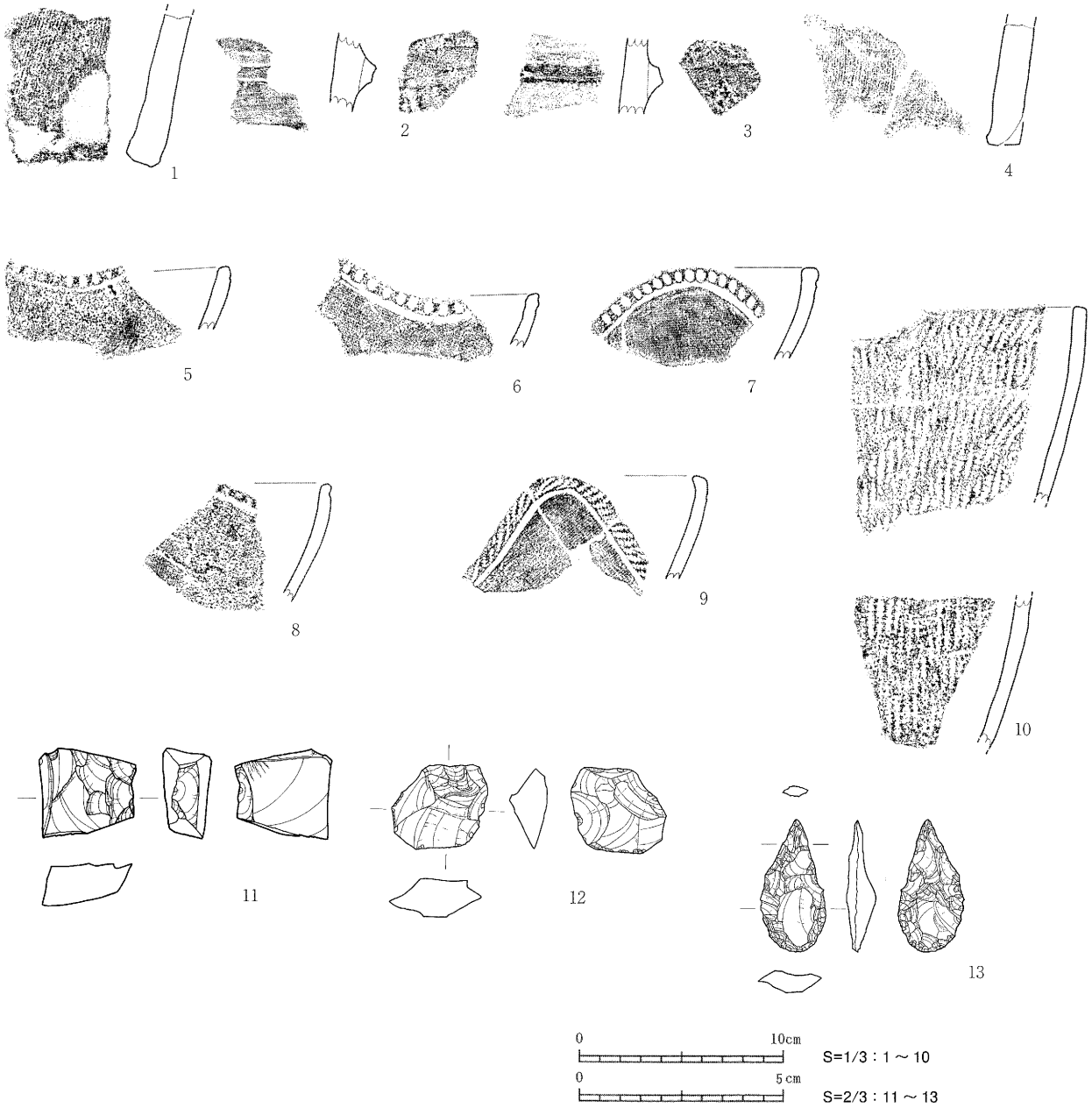
③大野田40号墳周溝内堆積土および調査区基本層からは、縄文時代後期中葉の宝ヶ峯式土器が出土した。周辺では、王ノ壇遺跡や伊古田遺跡において同時期の遺物包含層や土坑群が検出されており、今後の遺構・遺物の展開に注意していく必要がある。

参考文献

仙台市教育委員会1995『伊古田遺跡-仙台市高速鉄道関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ-』仙台市文化財調査報告書第193集

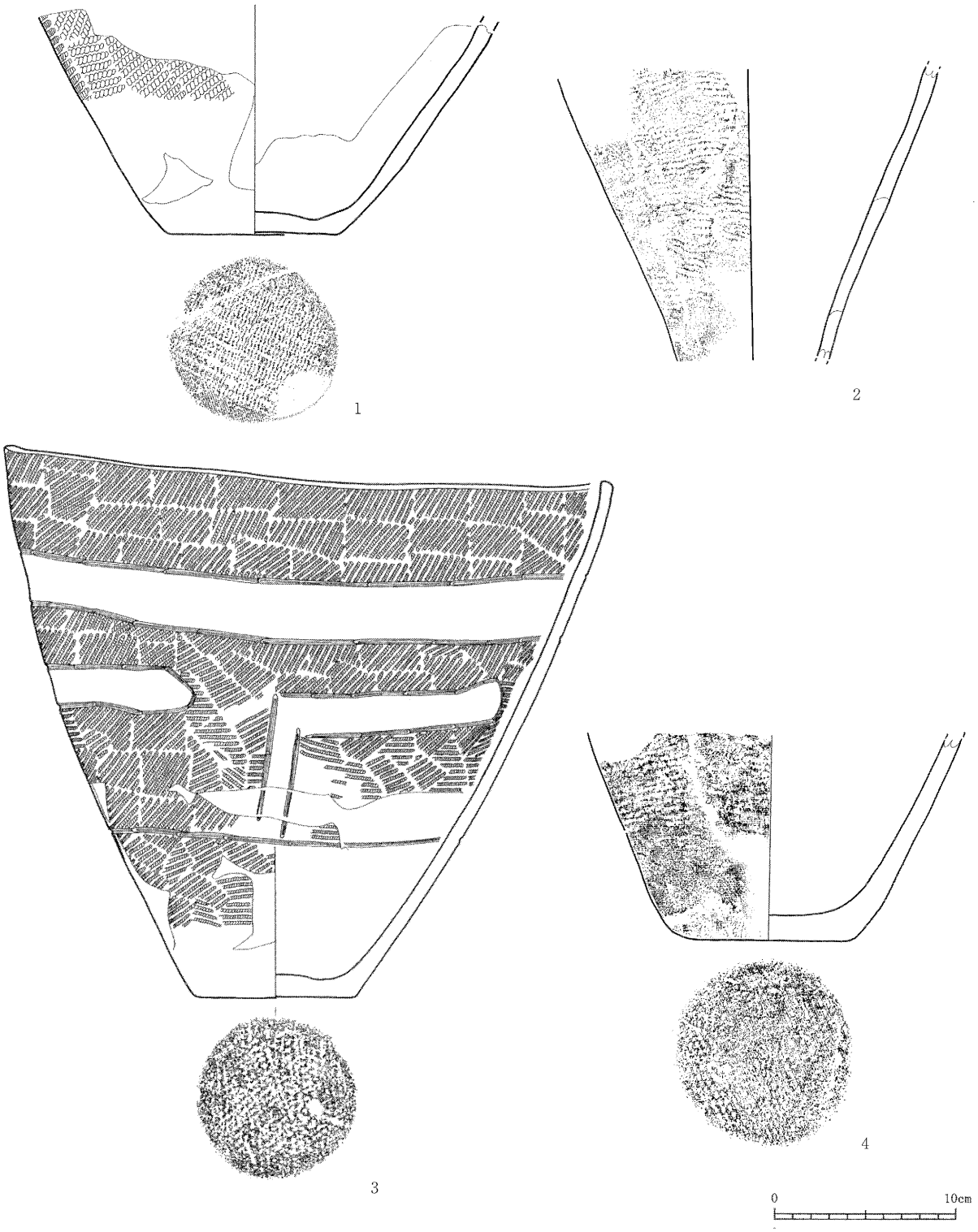
仙台市教育委員会2000『王ノ壇遺跡発掘調査報告書Ⅰ』仙台市文化財調査報告書第249集

斎藤報恩会1991『宝ヶ峯』



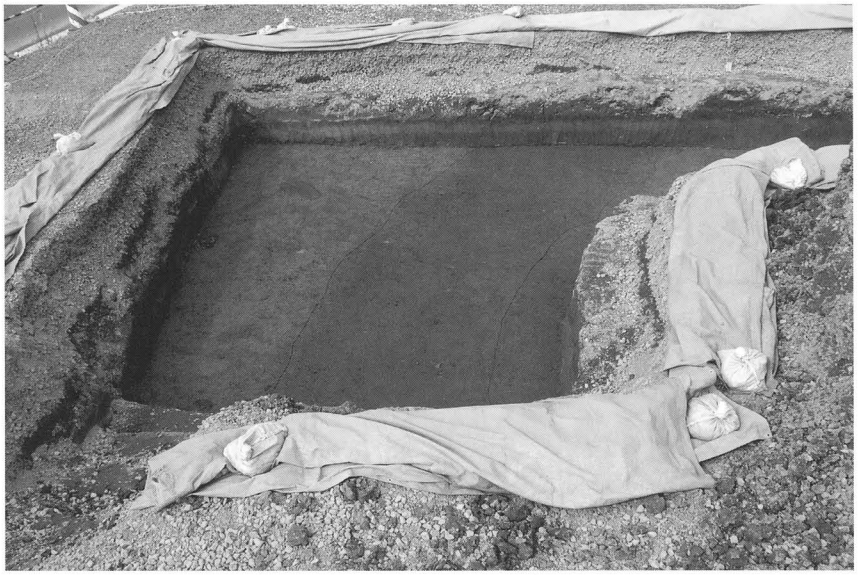
図中番号	登録番号	遺構名 基本層	出土層位	種別	器種	法量(cm) 器高 長さ	口径 幅	底径 厚さ	備考	写真図版
6－1	S－3	40号墳周溝	7	埴輪	円筒埴輪(透かし部)	－	－	－	外面:タテハケ、内面:体部　縦方向ナデ	2－1
6－2	S－2	40号墳周溝	1	埴輪	円筒埴輪(突帯部)	－	－	－	外面:突帯　ヨコナデ、内面:体部　縦方向ナデ	2－2
6－3	S－2	40号墳周溝	1	埴輪	円筒埴輪(突帯部)	－	－	－	外面:突帯　ヨコナデ、内面:体部　縦方向ナデ	2－3
6－4	S－1	Ⅳ		埴輪	円筒埴輪(基部)	－	－	－	外面:タテハケ、内面:体部　縦方向ナデ、基部　ユビオサエ	2－4
6－5～8	A－6	40号墳周溝	7	縄文土器	深鉢	－	－	－	口:波状、口縁:沈線、刻目　内面:ミガキ、後期中葉	2－5～8
6－9	A－7	40号墳周溝	7	縄文土器	深鉢	－	－	－	口:波状、口縁:縄文(LR)→沈線、内面:ミガキ、後期中葉	2－9
6－10	A－1	Ⅳ		縄文土器	深鉢	－	－	－	地文:縄文(LR)　内面:ミガキ	2－10
6－11	K－1	40号墳周溝	1	石器	二次加工のある剥片	2.4	2.55	1.2	重さ:9.9g	2－11
6－12	K－2	40号墳周溝	堆積土	石器	二次加工のある剥片	2.6	2.9	1.2	重さ:7.1g	2－12
6－13	K－3	40号墳周溝	7	石器	石鏃(未成品)	4.3	2.1	0.8	重さ:5.5g	2－13

第6図　出土遺物(1)



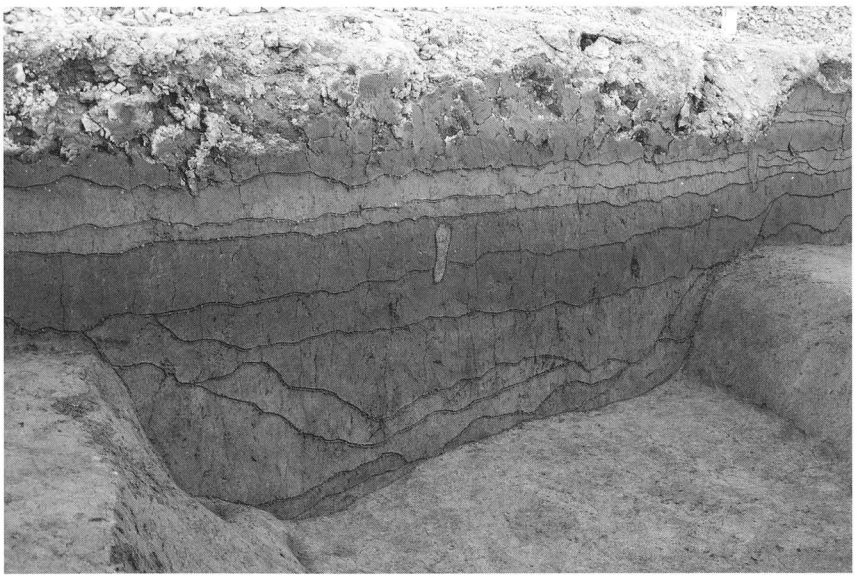
図中番号	登録番号	遺構名 基本層	出土層位	種別	器　種	法量(cm) 器高	口径	底径	備　　考	写真図版
7－1	A－3	40号墳周溝	堆積土	縄文土器	深鉢	－	－	9.2	地文:縄文(LR)　底部:網代痕　内面:ミガキ	3－1
7－2	A－5	40号墳周溝	7	縄文土器	深鉢	－	－	－	地文:縄文(LR)　内面:ミガキ	3－2
7－3	A－2	40号墳周溝	堆積土	縄文土器		30	34	8.9	胴:縄文(LR)、横位沈線文、区画沈線文　区画内部:磨消 底部:網代痕　内面:ミガキ、後期中葉	3－3
7－4	A－4	40号墳周溝	7	縄文土器	深鉢	－	－	8.7	地文:縄文(LR)　底部:網代痕　内面:ミガキ 白色針状物質を多く含む	3－4

第７図　出土遺物(2)



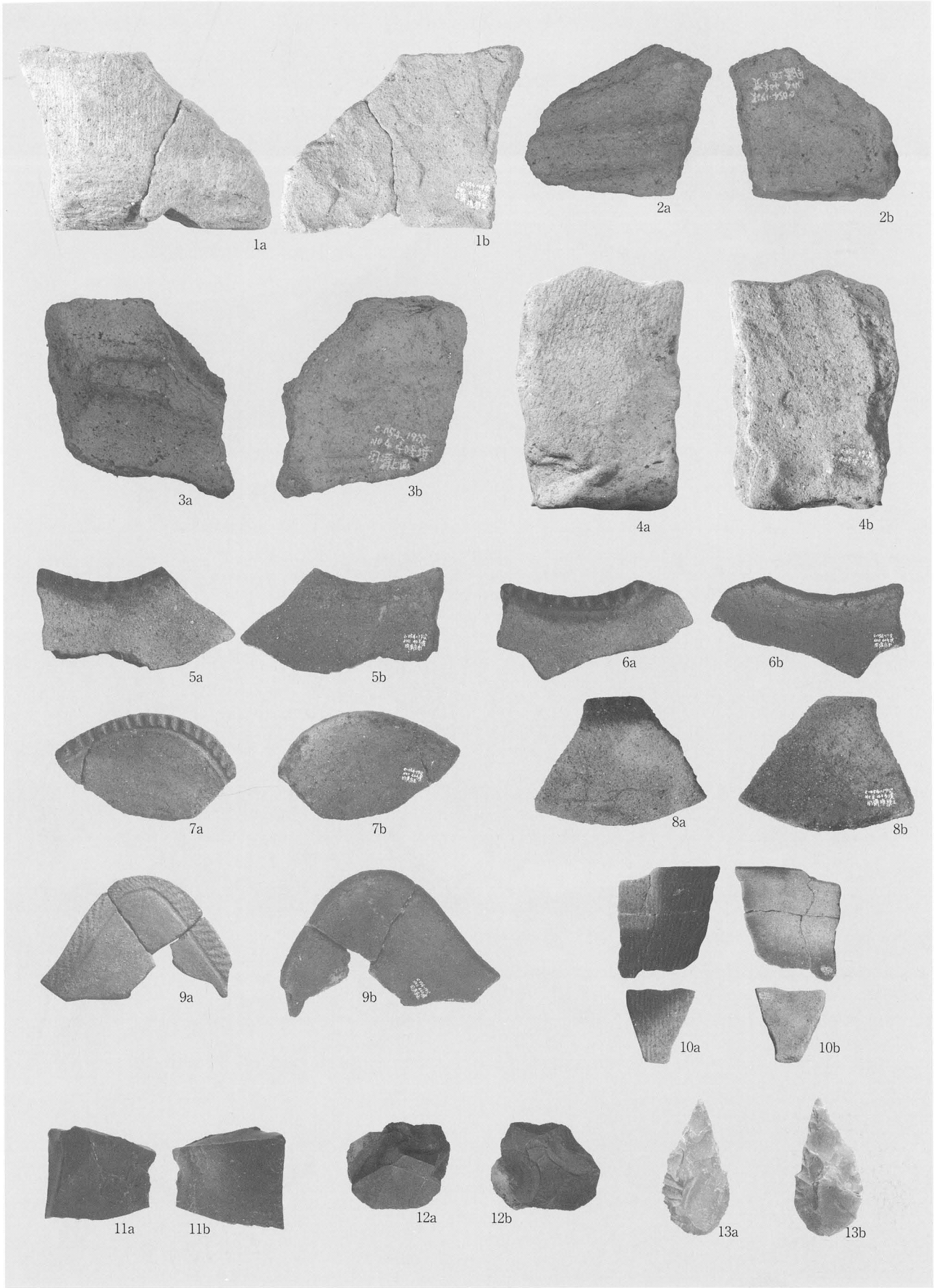
1　大野田40号墳周溝検出状況（南から）

2　大野田40号墳周溝完掘状況（南から）



3　調査区北壁周溝内堆積土状況
（南西から）

図版１　大野田40号墳周溝・調査区断面


1a
1b
2a
2b
3a
3b
4a
4b
5a
5b
6a
6b
7a
7b
8a
8b
9a
9b
10a
10b
11a
11b
12a
12b
13a
13b

図版２　出土遺物(1)

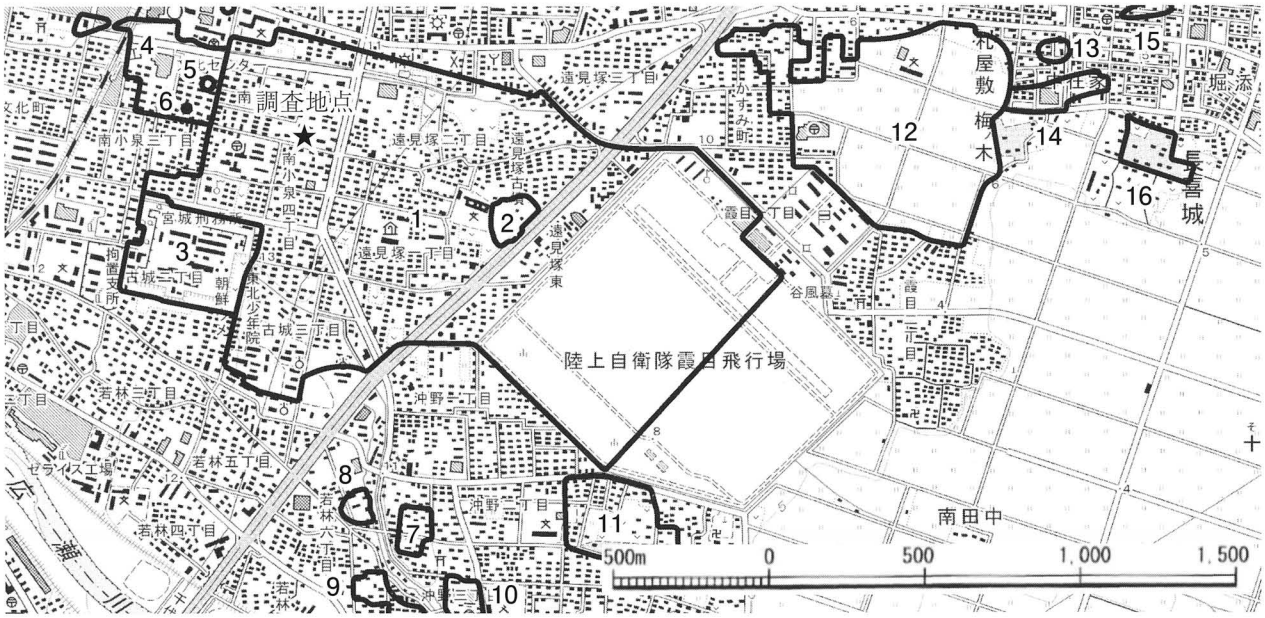
図版３　出土遺物(2)

Ⅴ　南小泉遺跡第63次発掘調査報告

1 調査要項

遺　跡　名	南小泉遺跡（宮城県遺跡番号01021）
調 査 地 点	仙台市若林区南小泉二丁目106－7、106－9、106－2の一部
調 査 期 間	平成21年10月26日～11月13日
調査対象面積	140.76㎡（敷地面積346.19㎡）
調 査 面 積	73.3㎡
調 査 原 因	個人住宅建築工事
調 査 主 体	仙台市教育委員会
調 査 担 当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査係
担 当 職 員	文化財教諭　佐々木匠　　文化財教諭　菊地貴博
	主事　森田義史　　臨時職員　千葉恭彦

2　調査に至る経過と調査方法

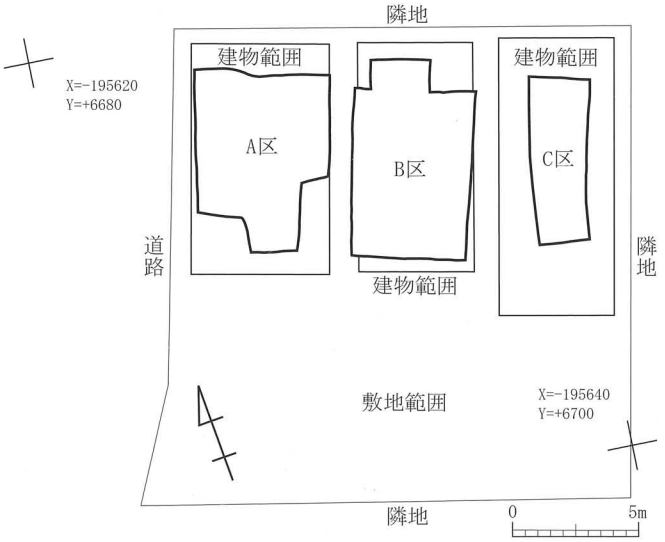


番号	遺跡名	種別	立地	時代	番号	遺跡名	種別	立地	時代
1	南小泉遺跡	集落、屋敷	自然堤防	弥生～近世	9	砂押Ⅱ遺跡	散布地	自然堤防	古墳、奈良、平安
2	遠見塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳	10	中柵西遺跡	散布地	自然堤防	弥生～平安
3	若林城跡	円墳、集落、城館	自然堤防	古墳、平安～近世	11	沖野城跡	城館	自然堤防	中世
4	養種園遺跡	集落、屋敷、包含地	自然堤防	縄文、古墳、平安～近世	12	仙台東郊条里跡	条里	後背湿地	奈良、平安
5	蛇塚古墳	円墳	自然堤防	古墳	13	中在家遺跡	包含地	自然堤防	平安
6	猫塚古墳	円墳	自然堤防	古墳	14	中在家南遺跡	墓地、河川、水田	自然堤防、後背湿地	弥生、古墳、平安～近世
7	神柵遺跡	建物、包含地	自然堤防	奈良、平安	15	高屋敷遺跡	散布地	自然堤防	古墳、奈良、平安
8	砂押Ⅰ遺跡	散布地	自然堤防	古墳、奈良、平安	16	長喜城館跡	城館	自然堤防	中世

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡

第２図　調査地点位置図

調査は、申請者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」２件に対して文化財保護法第93条（H21教生文第152-89号、H21教生文第152-90号で回答）に基づき、Ａ、Ｂ区として調査を実施した。また、同時期、同敷地内において、建売住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」に対して文化財保護法第93条（H21教生文第152-88号）に基づき実施した調査結果も第63次調査Ｃ区として報告する。



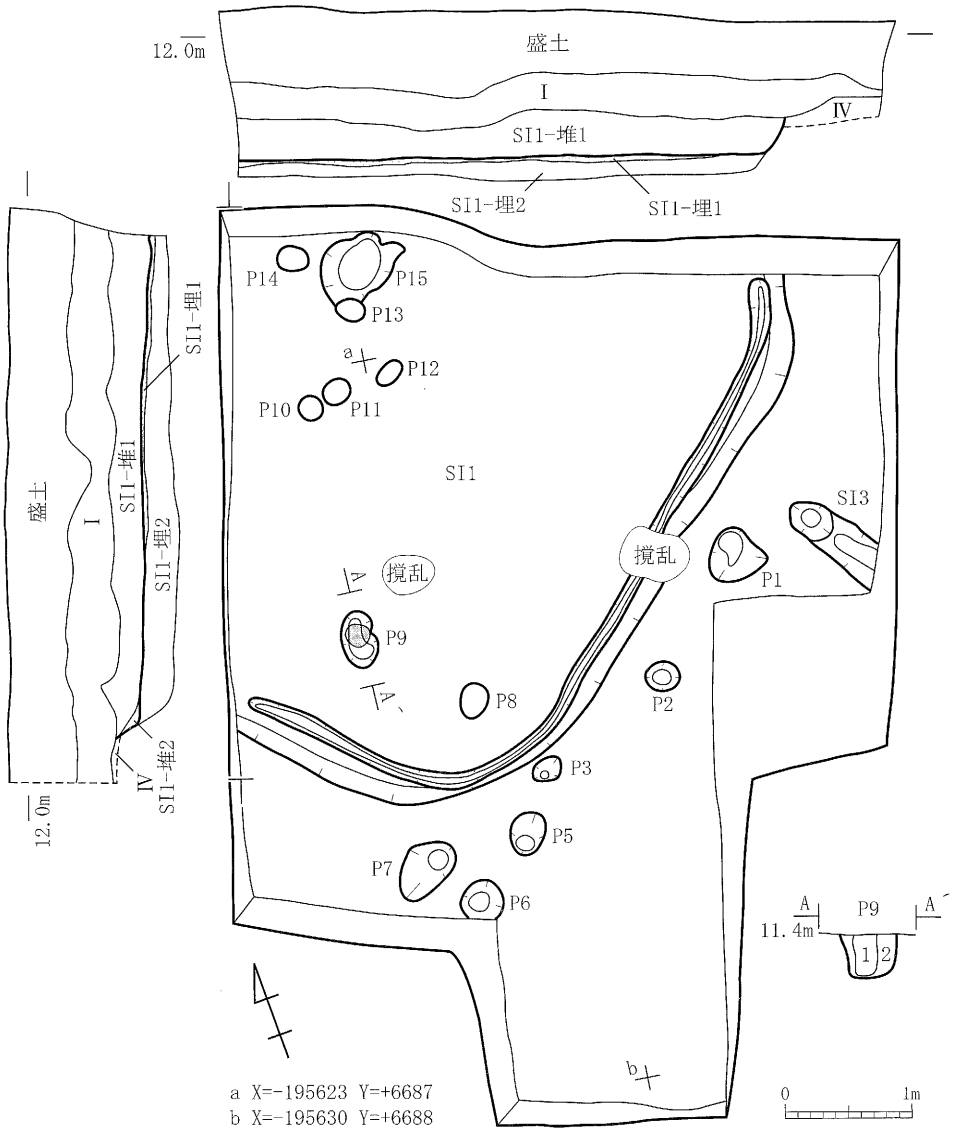
第３図　調査区配置図

確認調査は平成21年10月26日に着手した。調査区は、それぞれの住宅建築範囲内に３箇所設定した（Ａ～Ｃ区）。重機により、盛土およびⅠ、Ⅱ、Ⅲ層を除去後、Ⅳ層上面において遺構検出作業を行った。その結果、Ａ、Ｂ区において調査区外に延びる竪穴住居跡が検出されたことから、申請者と協議した結果、住居跡全体の規模等を明らかにするため建物建築範囲内に限り調査区を拡張し、本調査を実施することとした。遺構の掘り下げを行い、断面、平面について写真・図面で記録し、調査を終了した。調査終了後、重機により転圧をかけながら埋め戻しを行った。

3　遺跡の位置と環境

南小泉遺跡は、仙台市の東部に位置し、名取川左岸の自然堤防上に立地している。遺跡の範囲は東西約２km、南北約２kmと市内でも最大級の広がりを持っている。標高は、西側が約13m、東側が約7.5mである。

これまでの調査で縄文時代から近世の複合遺跡であることが明らかにされている。古墳時代前期には、当遺跡内の遠見塚古墳や、北東約１kmに位置する中在家南遺跡で方形周溝墓が築造されるが、当該期の集落は不明確で、塩釜式期の土器が各地点で確認される程度である。中期の南小泉式期になると、遺構の検出数が急増する。これまでの調査の積み重ねで、60軒以上の竪穴住居跡が確認されており、拠点的な集落の形成が考えられる。



基本層	土　色	土　性	備　考
Ⅰa	10YR５/２灰黄褐色	粘土質シルト	耕作土。
Ⅰb	10YR２/２黒褐色	粘土質シルト	酸化鉄少量含む。
Ⅲ	10YR５/３にぶい黄褐色	粘土質シルト	マンガン粒少量含む。
Ⅳ	10YR５/６黄褐色	粘土質シルト	10YR６/３にぶい黄橙ブロック少量含む。

遺構	堆積土	土　色	土　性	備　考
P９	１	10YR２/３黒褐色	砂質シルト	柱痕跡。
	２	10YR３/３暗褐色	粘土質シルト	10YR５/６黄褐色ブロック多量含む。柱掘り方。

第４図　Ａ区遺構平面図・断面図

後期になると、遺跡の西側に集落が拡大する。また、法領塚古墳が築造されている。奈良時代になると北西１kmほどの地点に陸奥国分寺・尼寺が建立される。遺跡内でも前代まで集落の認められなかった北西部に竪穴住居跡や掘立柱建物跡が検出されるようになる。本調査地点は遺跡の西部にあり、北東に近接する平成20年度調査（第58次）では時期不明ながら溝跡や土坑が検出され、７世紀代の須恵器甕などが出土している。

4　基本層序

基本層は、４層確認した。Ⅰ層は層厚約５cm～32cmで、現代の耕作土である。Ⅱ層は黒褐色粘土質シルトで、部分的に検出される。Ⅲ層はにぶい黄褐色粘土質シルトで、土師器などの遺物片を多く含む。Ⅳ層は黄褐色粘土質シルトで、遺構検出面である。調査地点の盛土は、10cm～68cmである。

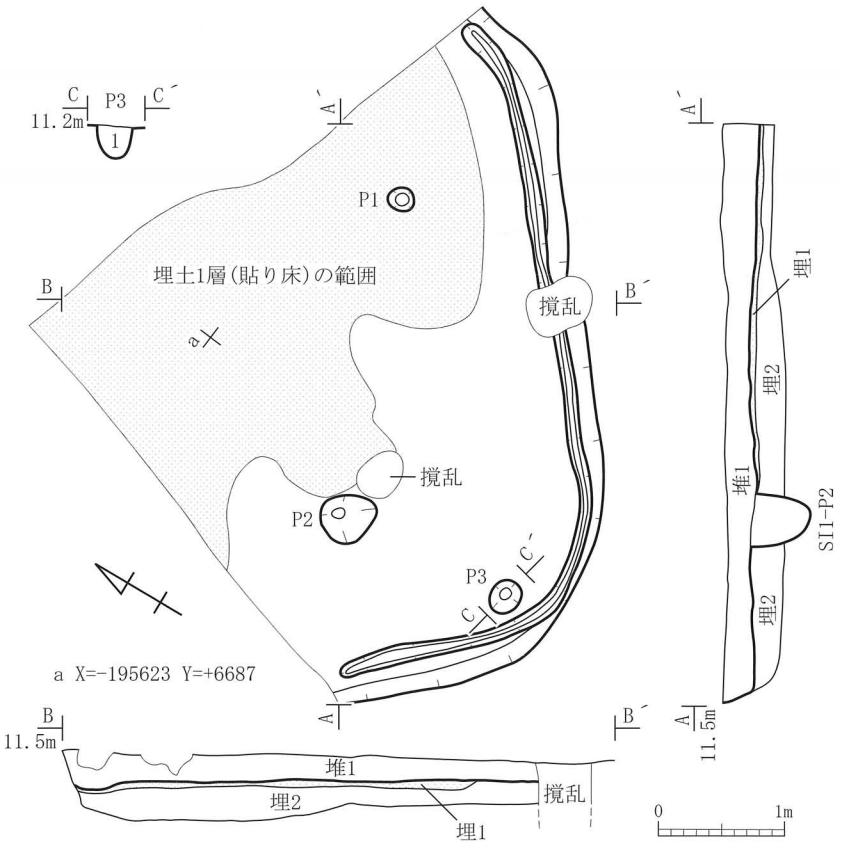
5　発見遺構と出土遺物

(1)　Ⅳ層上面検出遺構

Ⅳ層上面で遺構を検出した。Ａ区で竪穴住居跡１軒、ピット15基、Ｂ区で竪穴住居跡２軒、土坑２基、ピット７基、Ｃ区で土坑１基、ピット１基を検出した。

１）竪穴住居跡

ＳＩ１竪穴住居跡　Ａ区中央部で検出され、北と西は調査区外に延びている。平面形は隅丸方形で、方向は南北軸でN－53°－Eである。Ｐ１～Ｐ８と新旧関係があり、いずれの遺構よりも古い。規模は南北軸で4.20m以上・東西軸で3.75m以上である。検出面から床面までの深さは約20cmである。堆積土は２層に分かれ（堆積土１、２層）、すべて住居内堆積土である。床面では、住居跡中央部から東部の範囲で、貼り床と見られる硬化面（埋土１層）が確認された。カマドは検出されず、



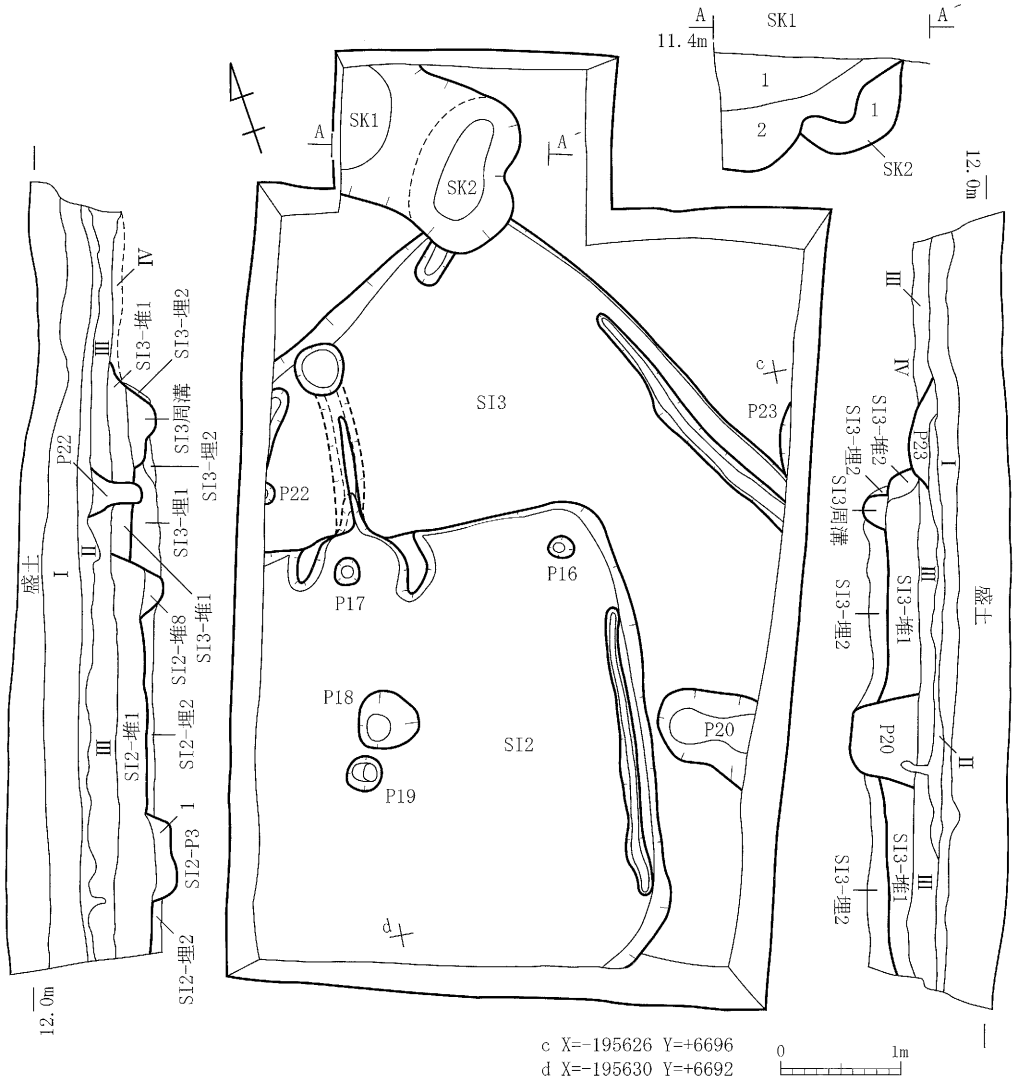
堆積土・埋土	層位	土　色	土　性	備　考
堆積土	1	10YR５/２灰黄褐色	粘土質シルト	10YR４/６褐色粒少量含む。住居内堆積土。
	2	10YR４/４褐色	粘土質シルト	10YR５/６黄褐色ブロック多く含む。住居内堆積土。
埋土	1	10YR７/６明黄褐色	シルト	10YR４/２灰黄褐色ブロック多量、10YR７/１灰白色ブロック少量含む。貼り床。
	2	10YR５/４にぶい黄褐色	シルト	10YR５/２灰黄褐色ブロック少量含む。掘り方埋め土。

遺構名	層位	土　色	土　性	備　考
Ｐ１	1	10YR４/２灰黄褐色	粘土質シルト	10YR５/４にぶい黄褐色ブロック少量含む。
Ｐ２	1	10YR３/１黒褐色	粘土質シルト	10YR５/６黄褐色ブロック少量含む。
Ｐ３	1	10YR３/２黒褐色	粘土質シルト	10YR５/６黄褐色ブロック少量含む。
周溝	1	10YR４/２灰黄褐色	粘土質シルト	10YR５/６黄褐色ブロックをやや多く含む。

第５図　ＳＩ１竪穴住居跡平面図・断面図

ピットが３基（Ｐ１～Ｐ３）と周溝が検出された。Ｐ１は径約20cmの円形を呈し、深さは８cmである。Ｐ２は径約40cmの円形を呈し、深さは40cmである。Ｐ３は北半部のみの検出であるが、径約30cm円形、もしくは楕円形と推定され、深さは26cmである。堆積土はいずれも単層で、柱痕跡は確認されなかったが、規模や位置からＰ２は主柱穴である可能性がある。また、周溝は住居跡の東部、南部で検出され、規模は上端幅10～16cm、下端幅３～10cm、深さ13cmで、堆積土は単層である。掘り方埋土（埋土２層）はにぶい黄褐色シルトで、厚さは５～25cmである。掘り方底面は、中心部から周辺部にかけて緩やかに傾斜している。

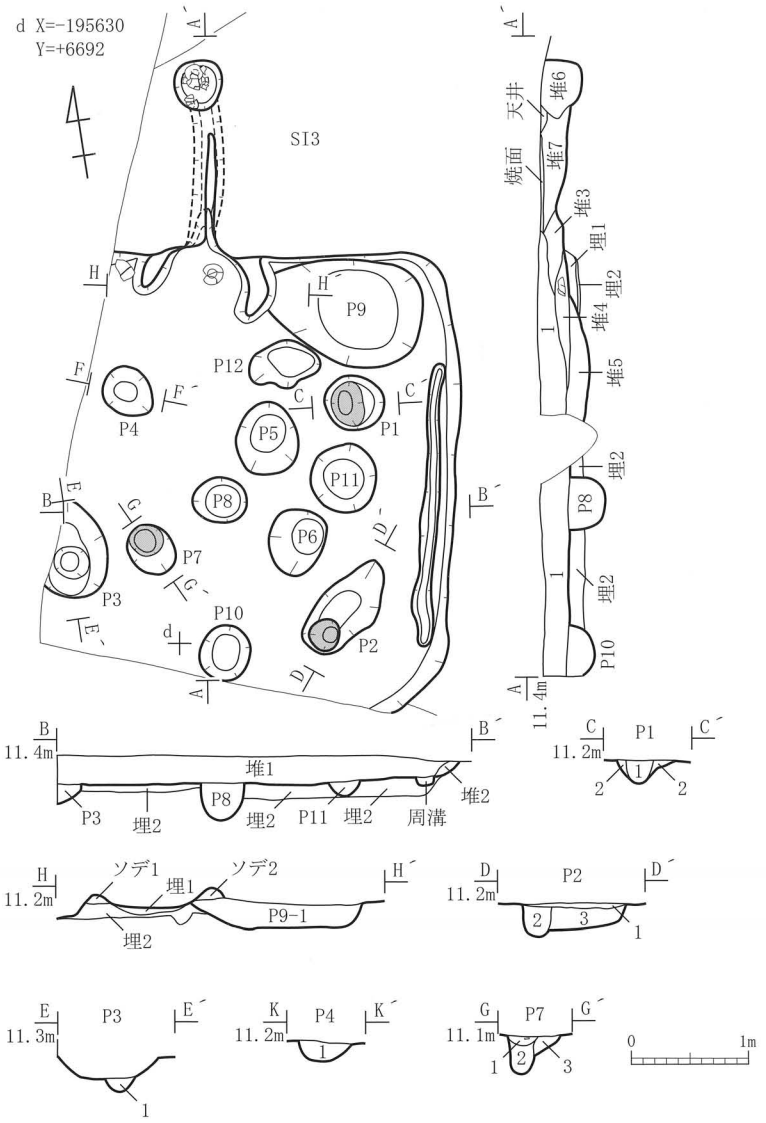
遺物は床面から出土していない。しかし、堆積土１層から多くの土師器片が出土した。第10図１は内面に黒色処理を施さない関東系の土器である。他に図示した第10図２～４はいずれも在地の土師器であるが、郡山遺跡に類例が見出されるものである。細片のため図化はしていないが、堆積土中からロクロ土師器も出土している。



遺構名	堆積土	土　色	土　性	備　考
ＳＫ１	1	10YR４/１褐灰色	砂質シルト	10YR４/４褐色ブロック多量、10YR３/１黒褐色ブロック少量含む。
	2	10YR３/１黒褐色	砂質シルト	10YR４/４褐色ブロック少量含む。
ＳＫ２	1	10YR４/２灰黄褐色	砂質シルト	10YR４/４褐色ブロック少量含む。

第６図　Ｂ区遺構平面図・断面図

ＳＩ２竪穴住居跡　Ｂ区中央に位置し、南と西は調査区外に延びている。ＳＩ３竪穴住居跡やＰ16～Ｐ19と新旧関係があり、ＳＩ３竪穴住居跡より新しく、Ｐ16～Ｐ19より古い。平面形は隅丸方形で、方向は南北軸でN－１°－Eである。規模は南北軸3.85m以上・東西軸3.40m以上を計る。検出面から床面までの深さは約20cmである。堆積土は８層に分かれ（堆積土１～８層）、１～３層が住居内堆積土、４、５層がカマド内堆積土、６層が煙道内堆積土、７層が煙出ピット内堆積土である。８層は、カマド左袖の西側に堆積した灰だまりである。床面ではカマドと柱穴３基（Ｐ１～Ｐ２、Ｐ７）、ピット８基（Ｐ３～Ｐ６、Ｐ８～Ｐ11）、周溝が検出された。ピットで柱痕跡が認められたものはＰ１、Ｐ２、Ｐ７で、Ｐ１は径約50cmの円形を呈し、深さは約20cmである。堆積土は２層である。Ｐ２は長軸80cm・短軸約45cmの楕円形を呈し、深さは約30cmである。堆積土は３層である。Ｐ７は長軸45cm・短軸38cmの楕円形を呈し、深さは約34cm である。堆積土は３層である。Ｐ１、Ｐ２は、規模や位置から主柱穴であると考えられる。その他のピットは、径約20～80cmの円形、または楕円形を呈し、堆積土は単層で、炭化物粒や焼土粒が多く含まれる。Ｐ３は長軸80cm・短軸50cm以上の楕円形を呈し、深さは約20cmである。柱痕跡は確認できなかったが、形状から柱穴である可能性がある。堆積土中から多くの土師器片が出土している。Ｐ９はカマドの東側に位置し、規模は長軸140cm・短軸90cm、深さ13cm、規模や位置から貯蔵穴と考えられる。遺物は、堆積土中からロクロ土師器甕（第10図14・15）や非ロクロ土師器台付鉢（第10図12）が出土した。周溝は住居跡東側で検出された。上端幅10～20cm、下端幅５～８cm、深さ３cm、堆積土は単層である。カマドは北壁の東よりに設置されている。カマド右袖の上部が被熱を受け赤変しているが、カマド内は全体的に被熱が弱い。袖は褐色の基本層Ⅳ層を主体とした土を用いて構築されている。なお、右袖はＳＩ２Ｐ９の堆積土の上に構築されており、また左袖の西側には灰だまり（堆積土８層）が確認されたことから、調査区内では検出できなかったがカマド西側に古いカマドが存在し、今回検出されたものは新しいカマドである可能性もある。煙道部は長さ約160cm、幅約30cmで、先端に径約40cm、深さ約35cmの煙出しピットがある。煙出しピット内で、非ロクロ土師器坏（第10図６）や須恵器坏（第10図10）が重なるように出土している。掘り方埋土（埋土２層）はにぶい黄褐色シルトで、厚さは３～15cmである。掘り方底面は平坦である。



第７図　ＳＩ２竪穴住居跡遺構平面図・断面図

遺物は、床面において、須恵器坏（第10図11）や須恵器甕が出土している。堆積土１層からは多くの土師器片、須恵器片が出土しているが、底部調整は糸切りとヘラキリが混在しており、ロクロ成形された土師器坏が主体を占める。

堆積土・埋土	層位	土　色	土　性	備　考
堆積土	1	10YR４/１褐灰色	粘土質シルト	10YR５/６黄褐色ブロック微量含む。下部に10YR３/１黒褐色層状に含む。住居内堆積土。
	2	10YR４/３にぶい黄褐色	粘土質シルト	住居内堆積土。
	3	10YR４/１褐灰色	粘土質シルト	10YR５/６黄褐色ブロック少量、炭化物、焼土粒微量含む。住居内堆積土。
	4	10YR４/１褐灰色	粘土質シルト	炭化物、焼土ブロック多く含む。しまりなし。カマド内堆積土。
	5	10YR３/２黒褐色	粘土質シルト	10YR５/４にぶい黄褐色ブロック少量、炭化物、焼土ブロック少量含む。しまりなし。カマド内堆積土。
	6	10YR４/１褐灰色	粘土質シルト	上部に10YR５/６黄褐色ブロック多く含む。煙出しピット内堆積土。
	7	10YR５/１褐灰色	シルト	上部に炭化物集積。煙道内堆積土。
	8	10YR４/１褐灰色	粘土	焼土、炭化物多く含む。しまりなし。旧カマド内堆積土か。
埋土	1	10YR５/４にぶい黄褐色	シルト	10YR３/２黒褐色ブロック少量含む。しまりあり。上部赤く変色。
	2	10YR５/４にぶい黄褐色	シルト	10YR３/２黒褐色ブロック多く含む。掘り方埋め土。

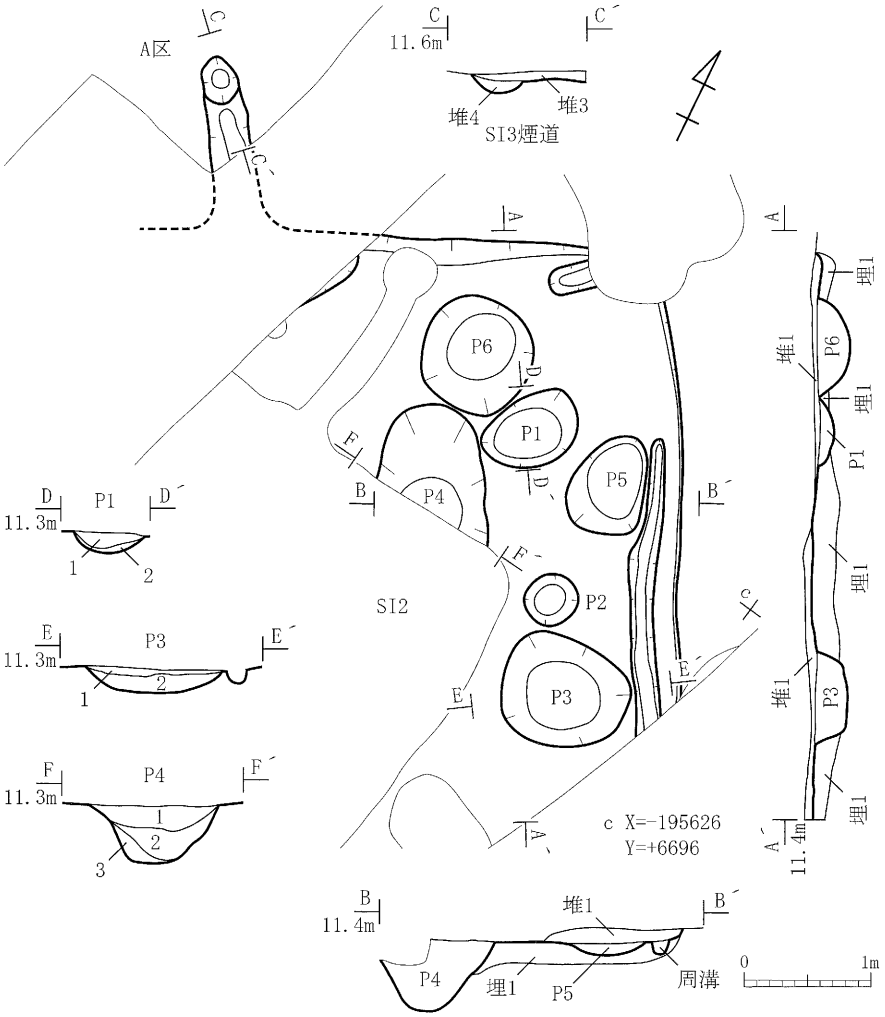
遺構名	層位	土　色	土　性	備　考
Ｐ１	1	10YR３/２黒褐色	粘土	10YR５/４にぶい黄褐色ブロック、炭化物粒微量含む。しまりなし。柱痕跡。
	2	10YR４/２灰黄褐色	粘土質シルト	10YR５/４にぶい黄褐色ブロック少量含む。下部に炭化物層状に含む。柱掘り方埋土。
Ｐ２	1	10YR５/３にぶい黄褐色	粘土	炭化物多く含む。
	2	10YR３/２黒褐色	粘土質シルト	10YR５/４にぶい黄褐色粒少量、炭化物粒微量含む。柱痕跡。
	3	10YR４/２灰黄褐色	粘土質シルト	10YR５/４にぶい黄褐色ブロック多量、炭化物粒、焼土粒少量含む。柱掘り方埋土
Ｐ３	1	10YR４/２灰黄褐色	粘土質シルト	10YR５/４にぶい黄褐色ブロック多量、炭化物粒、焼土粒少量含む。
Ｐ４	1	10YR３/２黒褐色	粘土質シルト	10YR５/４にぶい黄褐色ブロック、炭化物粒、焼土粒微量含む。
Ｐ５	1	10YR３/２黒褐色	粘土質シルト	10YR５/４にぶい黄褐色ブロック少量、炭化物粒、焼土粒微量含む。
Ｐ６	1	10YR３/２黒褐色	粘土質シルト	10YR５/４にぶい黄褐色ブロック少量、炭化物粒、焼土粒微量含む。
Ｐ７	1	10YR３/３暗褐色	砂質シルト	10YR５/４にぶい黄褐色粒、炭化物粒、焼土粒微量含む。
	2	10YR４/３にぶい黄褐色	砂質シルト	柱痕跡。
	3	10YR４/２灰黄褐色	砂質シルト	10YR５/４にぶい黄褐色粒、炭化物粒、焼土粒を微量含む。柱掘り方。
Ｐ８	1	10YR３/２黒褐色	粘土質シルト	10YR５/４にぶい黄褐色ブロック少量、炭化物粒、焼土粒微量含む。
Ｐ９	1	10YR３/２黒褐色	粘土質シルト	10YR５/４にぶい黄褐色ブロック多量、炭化物粒、焼土粒微量含む。
Ｐ10	1	10YR３/１黒褐色	粘土質シルト	10YR５/４にぶい黄褐色ブロック、炭化物粒、焼土粒少量含む。
Ｐ11	1	10YR３/１黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒、焼土粒微量含む。
Ｐ12	1	10YR３/１黒褐色	粘土質シルト	10YR５/４にぶい黄褐色ブロック、炭化物粒、焼土粒少量含む。
周溝	1	10YR４/２灰黄褐色	粘土質シルト	10YR５/４にぶい黄褐色ブロックやや多く含む。
カマドソデ	1	10YR５/４にぶい黄褐色	シルト	10YR３/３暗褐色ブロック少量含む。しまりあり。カマド袖構築土。
	2	10YR５/４にぶい黄褐色	シルト	10YR５/６黄褐色粒少量含む。しまりあり。カマド袖構築土。

ＳＩ２竪穴住居跡土層注記表

堆積土４層からは、ほぼ完形のロクロ土師器坏（第10図７）が１点出土している。埋土２層からも少量ながら土師器片が出土している。

ＳＩ３竪穴住居跡　Ｂ区中央部で検出され、南は調査区外に延びている。ＳＩ２竪穴住居跡、SK１土坑、Ｐ20、Ｐ22、Ｐ23と新旧関係がありいずれの遺構よりも古い。平面形は隅丸方形、もしくは方形と推定され、方向はW－40°－Nである。規模は南北軸3．50m以上・東西軸4．65m以上、検出面から床面までの深さは約10cmである。住居内堆積土は、２層に分かれ、主に暗褐色粘土質シルトで、住居壁際のみにぶい黄褐色シルトである。カマドは検出されなかったが、Ａ区においてこの住居跡の煙道が検出されている。煙道部は検出長約75cm、幅約33cmで、先端は底面が深くなる。床面では、ピット６基（Ｐ１～Ｐ６）と周溝が検出された。Ｐ１は長軸95cm・短軸75cmの楕円形を呈し、深さは16cmである。堆積土は２層である。Ｐ２は径40cmの円形を呈し、深さは約15cmである。堆積土は単層である。Ｐ３は長軸100cm・短軸87cmの楕円形を呈し、深さは約30cmである。堆積土は２層である。Ｐ４はＳＩ２竪穴住居跡に南半部を切られているため正確な規模は不明だが、長軸97cm・短軸85cm以上の楕円形を呈し、深さは約50cmである。堆積土は３層である。Ｐ５は長軸78cm・短軸50cmの楕円形を呈し、深さは約10cmである。堆積土は単層である。Ｐ６は径90cmの円形を呈し、深さ24cmである。堆積土は単層である。いずれのピットにも柱痕跡は確認されなかった。周溝は住居跡東側で検出された。上端幅20～26cm、下端幅５～12cm、深さ７cm、堆積土は単層である。掘り方埋土（埋土１、２層）は、灰黄褐色粘土質シルトやにぶい黄褐色砂質シルトで、厚さは５～24cmである。掘り方底面は、周辺部から中心部にかけて緩やかに傾斜している。

遺物は、床面において土製品の支脚が１点出土した。堆積土１層から非ロクロ土師器鉢（第11図１）、非ロクロ土師器高坏（第11図２）、埋土２層から南小泉式と見られる非ロクロ土師器高坏脚部（第11図３）が出土した。



堆積土・埋土	層位	土　色	土　性	備　考
堆積土	1	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	10YR5/6黄褐色ブロック少量、炭化物粒微量含む。住居内堆積土。
	2	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	住居内堆積土。
	3	10YR3/1黒褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色ブロック少量含む。煙道内堆積土。
	4	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	10YR3/1黒褐色ブロック微量含む。煙道内堆積土。
埋土	1	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色ブロック微量、炭化物粒、焼土粒微量含む。
	2	10YR5/3にぶい黄褐色	砂質シルト	10YR3/2黒褐色ブロックやや多く含む。掘り方埋め土。

遺構名	層位	土　色	土　性	備　考
P1	1	10YR4/1褐灰色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色ブロック、炭化物粒、焼土粒少量含む。
	2	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色ブロック少量、炭化物粒、焼土粒微量含む。
P2	1	10YR4/1褐灰色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色ブロック少量、炭化物粒、焼土粒多量含む。
P3	1	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色ブロック、炭化物少量含む。
	2	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色ブロック少量、炭化物粒、焼土粒微量含む。
P4	1	10YR4/1褐灰色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色ブロック、炭化物粒、焼土粒微量含む。
	2	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色ブロック、炭化物多量、焼土粒微量含む。
	3	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色ブロック、炭化物粒、焼土粒微量含む。
P5	1	10YR4/1褐灰色	粘土質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色ブロック、炭化物粒、焼土粒少量含む。
周溝	1	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒、炭化物粒微量含む。

第8図　ＳＩ３竪穴住居跡遺構平面図・断面図

2）土坑

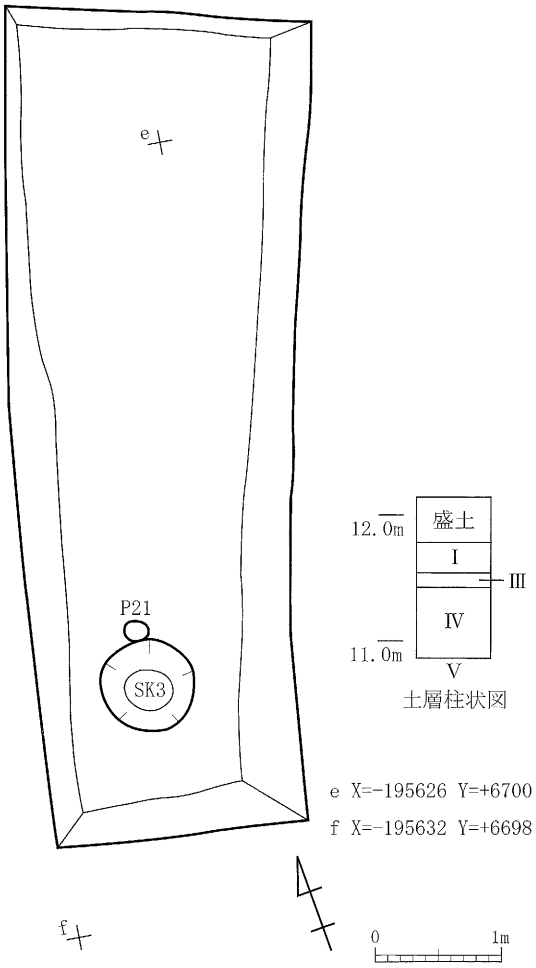
ＳＫ１土坑　Ｂ区北部に位置し、北と西は調査区外に延びている。SI３竪穴住居跡、SK２土坑と重複し、いずれの遺構よりも新しい。平面形は不整形で、規模は長軸180cm以上・短軸120cm以上で、深さは100cmである。堆積土は２層で、人為的な堆積状況が見られる。堆積土２層から非ロクロ土師器坏（第11図４）が出土している。詳細な時期、性格については不明である。

ＳＫ２土坑　Ｂ区北部に位置し、北と西は調査区外に延びている。SK１土坑と重複し、SK１土坑より古い。平面形、規模は不明であるが、深さは76cmである。堆積土は単層で、人為的な堆積状況が見られる。遺物は出土していない。詳細な時期、性格については不明である。

ＳＫ３土坑　Ｃ区南部で検出された。規模は径70cm、深さ約23cm で、平面形は円形である。断面形はU字形で、堆積土は単層である。遺物は堆積土中から土師器片が出土したが、詳細な時期、性格については不明である。

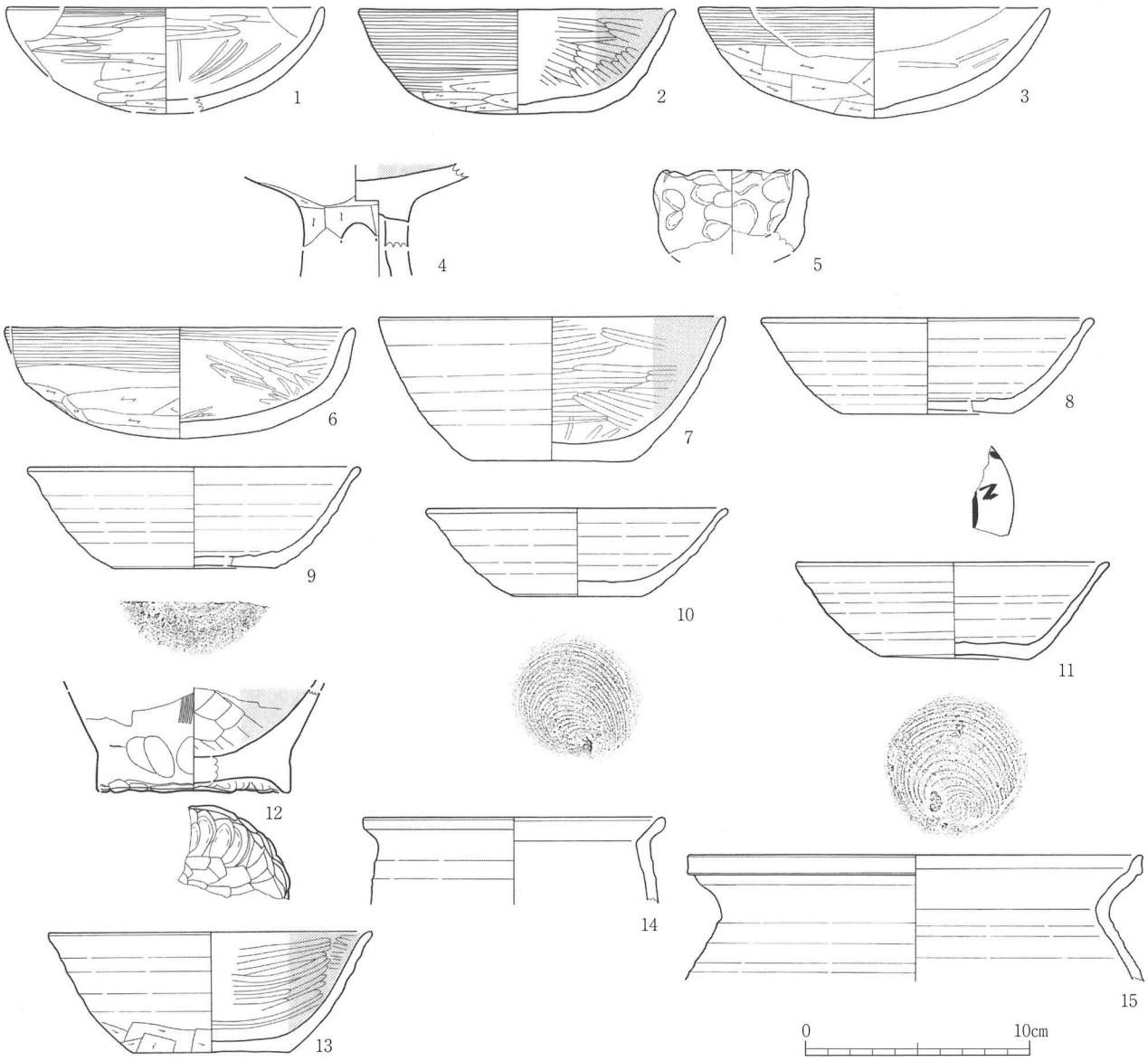
3) ピット

Ａ区で15基、Ｂ区で７基、Ｃ区で１基、合計23基が検出された。ほとんどが堆積土は単層で、堆積土中から土師器片が出土したものもあるが、柱痕跡は確認されなかった。唯一柱痕跡が確認されたＡ区検出のＰ９は、長軸45cm、短軸27cmの楕円形を呈し、深さは35cmである。堆積土は２層で、遺物は出土しなかった。いずれのピットも、建物等となるような配置は見られず、詳細な性格については不明である。



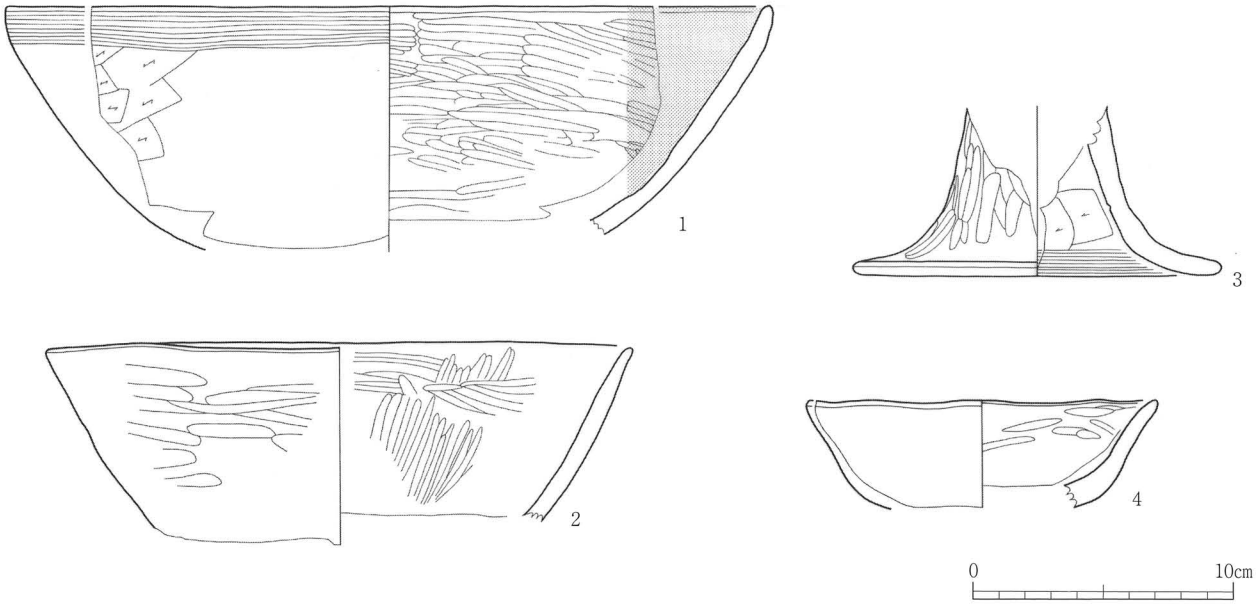
遺構名	堆積土	土　色	土　性	備　考
ＳＫ３	1	10YR3/1黒褐色	粘土質シルト	10YR4/4褐色ブロック少量含む。

第９図　Ｃ区遺構平面図



図中番号	登録番号	遺構名	出土層位	種別	器種	法量(cm)			備　　考	写真図版
						器高	口径	底径		
10－1	C－1	SI1	堆1	非ロクロ土師器	坏	(4.6)	(14.0)	—	内面:口縁ヨコナデ→ヘラミガキ　外面:口縁ヨコナデ→ヘラミガキ、体部ヘラケズリ→ヘラミガキ	9－1
10－2	C－2	SI1	堆1	非ロクロ土師器	坏	4.6	14.0	—	外面:口縁ヨコナデ、体部ケズリ、内面:ヘラミガキ→黒色処理	9－2
10－3	C－3	SI1	堆1	非ロクロ土師器	坏	4.9	15.4	—	内面:ヘラミガキ、外面:口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ	9－3
10－4	C－4	SI1	堆1	非ロクロ土師器	高坏	(5.1)	—	—	内面:ヘラミガキ→黒色処理、外面:ヘラケズリ、脚部:透かし	9－4
10－5	C－6	SI2	堆4	非ロクロ土師器	手捏ね	(6.4)	5.8	—	内外面:指頭痕	9－5
10－6	C－7	SI2	堆6	非ロクロ土師器	坏	5.0	15.6	—	内面:ヘラミガキ、被熱により黒色処理消失か、外面:口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ	9－6
	D－1	SI2	堆1	ロクロ土師器	坏	—	—	—	内面:ヘラミガキ→黒色処理	9－7
	D－2	SI2	堆1	ロクロ土師器	坏	—	—	—	内面ヘラミガキ→黒色処理　底部ヘラキリ	9－8
10－7	D－3	SI2	堆4	ロクロ土師器	坏	6.6	15.4	7.4	内面:ヘラミガキ→黒色処理　外面:ロクロ調整　体部下～底部ヘラケズリ	9－9
	D－4	SI2	堆6	ロクロ土師器	坏	4.0	—	6.4	内面:ミガキ→黒色処理、底部ヘラキリ	9－10
	D－5	SI2	堆7	ロクロ土師器	甕	—	—	—	内面ナデ、底部ヘラキリ	9－11
10－8	E－3	SI2	堆1	須恵器	坏	4.3	(14.5)	(7.6)	内外面:ロクロ調整　底部:墨書あり	9－12
10－9	E－4	SI2	堆4	須恵器	坏	4.5	(14.7)	(7.2)	内外面:ロクロ調整　底部:回転ヘラキリ	9－13
10－10	E－5	SI2	堆6	須恵器	坏	4.0	13.0	5.8	内外面:ロクロ調整　底部:回転糸切り	9－14
10－11	E－6	SI2	床面	須恵器	坏	4.2	13.6	6.4	内外面:ロクロ調整　底部:回転糸切り	9－15
	E－7	SI2	床面	須恵器	甕	—	—	—		9－16
10－12	C－8	SI2　P9	1	非ロクロ土師器	台付鉢	(4.8)	—	8.8	内面:ナデ、黒色処理、外面:体部下部ハケメ、ナデ、高台内　指圧痕、ナデ	9－20
10－13	D－6	SI2　P9	1	ロクロ土師器	坏	5.3	14.4	7.0	内面:ヘラミガキ→黒色処理、外面:ロクロ調整、体部下～底部ヘラケズリ	9－17
10－14	D－7	SI2　P9	1	ロクロ土師器	甕	(3.8)	(12.8)	—	内外面ロクロ調整	9－18
10－15	D－8	SI2　P9	1	ロクロ土師器	甕	(5.6)	20.2	—	内外面:ロクロ調整	9－19

第10図　ＳＩ１・ＳＩ２竪穴住居跡出土遺物



図中番号	登録番号	遺構名・基本層	出土層位	種別	器種	法量(cm)			備考	写真図版
						器高	口径	底径		
11－1	C－9	ＳＩ３	堆1	非ロクロ土師器	鉢	(8.7)	(28.8)	—	内面:ヘラミガキ→黒色処理、外面:口縁　ヨコナデ　体部　ヘラケズリ	10－1
11－2	C－10	ＳＩ３	堆1	非ロクロ土師器	高坏	(7.6)	22.0	—	内面:ヘラミガキ、外面:口縁　ヘラミガキ　体部　ナデ→ヘラミガキ ヘラケズリ	10－2
11－3	C－11	ＳＩ３	埋2	非ロクロ土師器	高坏	(6.5)	—	14.0	内面:ヘラケズリ、ヨコナデ、外面:ヘラミガキ	10－3
	C－12	ＳＩ３	堆1	土製品	支脚	—	—	—		10－4
	C－13	ＳＩ３	床面	土製品	支脚	—	—	—		10－5
11－4	C－14	ＳＫ１	2	非ロクロ土師器	坏	4.0	13.0	—	内面:ヘラミガキ、外面:マメツ	10－6
	E－1	Ⅲ層		須恵器	壺	—	—	—	波状文	10－7
	E－2	Ⅲ層		須恵器	壺	—	—	—	波状文	10－8

第11図　ＳＩ３竪穴住居跡ほか出土遺物

6　まとめ

①今回の調査では、竪穴住居跡３軒、土坑３基、ピット23基が検出された。

②Ａ区で検出されたＳＩ１竪穴住居跡の堆積土中からは、古墳時代後期～平安時代の土師器が出土している。時期を決定する遺物の出土はなく、詳細な時期は不明である。

③Ｂ区で検出されたＳＩ２竪穴住居跡は、床面出土遺物から平安時代の遺構と考えられる。

④Ｂ区で検出されたＳＩ３竪穴住居跡は、堆積土からは古墳時代中期の遺物が出土しているが、床面における遺物の出土が少なく、詳細な時期は不明である。

⑤Ｂ区で検出されたＳＫ１、ＳＫ２土坑は人為的な堆積状況が見られるが、性格は不明である。堆積土１層から非ロクロ土師器坏が出土したが、詳細な時期は不明である。

⑥Ｃ区で検出されたＳＫ３土坑からは古墳時代の土師器坏が出土したが、性格は不明である。

⑦それぞれの調査区で検出されたピットは、Ｐ９のみ柱痕跡が確認されたが、いずれも建物跡を示すような有意な配置は見られない。

参考文献

仙台市教育委員会2005『郡山遺跡発掘調査報告書－総括編(1)－』仙台市文化財調査報告書第283集

仙台市教育委員会2009「Ⅱ南小泉遺跡第58次発掘調査報告書」『仙台平野の遺跡ＸＩＸ
－平成20年度発掘調査報告書－』仙台市文化財調査報告書第346集

1　A区SⅠ1竪穴住居跡検出状況
（南から）

2　A区SⅠ1竪穴住居跡
床面遺構完掘状況（北から）

3　A区拡張後SⅠ1竪穴住居跡西部
検出状況（南から）

図版1　　A区SⅠ1竪穴住居跡

1　A区拡張区ＳＩ１竪穴住居跡
床面遺構完掘状況（北西から）

2　A区ＳＩ１竪穴住居跡
完掘状況（南東から）

3　A区北壁断面（東から）

図版２　A区ＳＩ１竪穴住居跡・調査区断面

1　B区Ⅳ層上面遺構検出状況（南から）

2　B区ＳＩ２竪穴住居跡
床面遺構検出状況（南から）

3　B区ＳＩ２竪穴住居跡
Ｐ１断面（南から）

図版３　B区ＳＩ２竪穴住居跡(1)

1　B区SⅠ2竪穴住居跡
カマド内遺物出土状況（南東から）

2　B区SⅠ2竪穴住居跡
カマド内遺物出土状況（北から）

3　B区SⅠ2竪穴住居跡
床面遺構完掘状況（南から）

図版4　　B区SⅠ2竪穴住居跡(2)

1　B区SI2竪穴住居跡
煙出ピット内遺物出土状況（東から）

2　B区SI2竪穴住居跡
カマド袖断面（南から）

3　B区SI2竪穴住居跡
完掘状況（南から）

図版5　B区SI2竪穴住居跡(3)

1　B区ＳＩ３竪穴住居跡
床面遺構完掘状況（南東から）

2　B区ＳＩ３竪穴住居跡
遺物出土状況（東から）

3　B区ＳＫ１、ＳＫ２土坑完掘状況
（南から）

図版６　　B区ＳＩ３竪穴住居跡・ＳＫ１、ＳＫ２土坑

1　B区Ⅳ層上面遺構完掘全景
（南から）

2　B区西壁断面（東から）

3　B区東壁断面（西から）

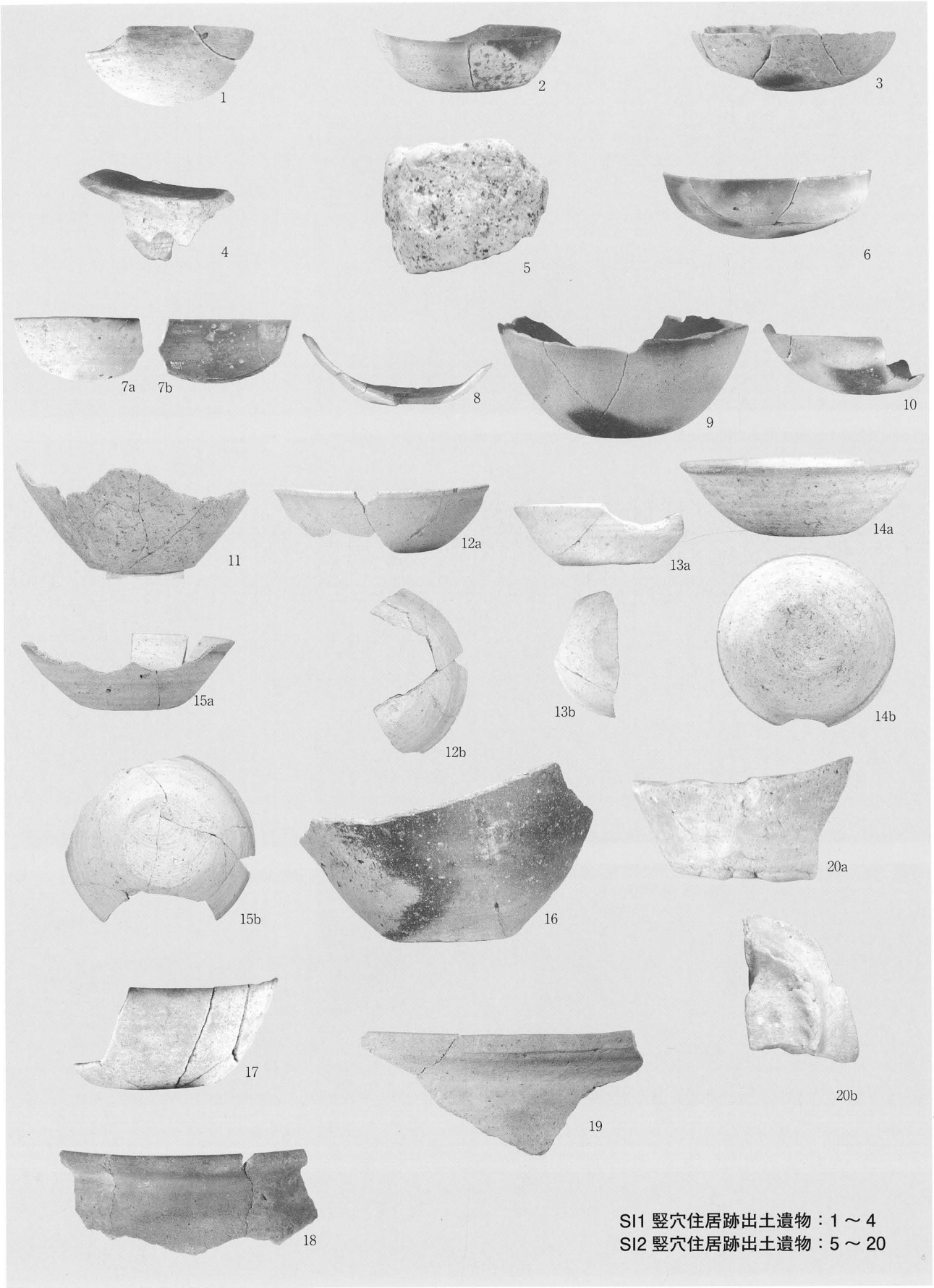
図版７　B区完掘状況・調査区断面

1　C区Ⅳ層上面遺構完掘全景
（南から）

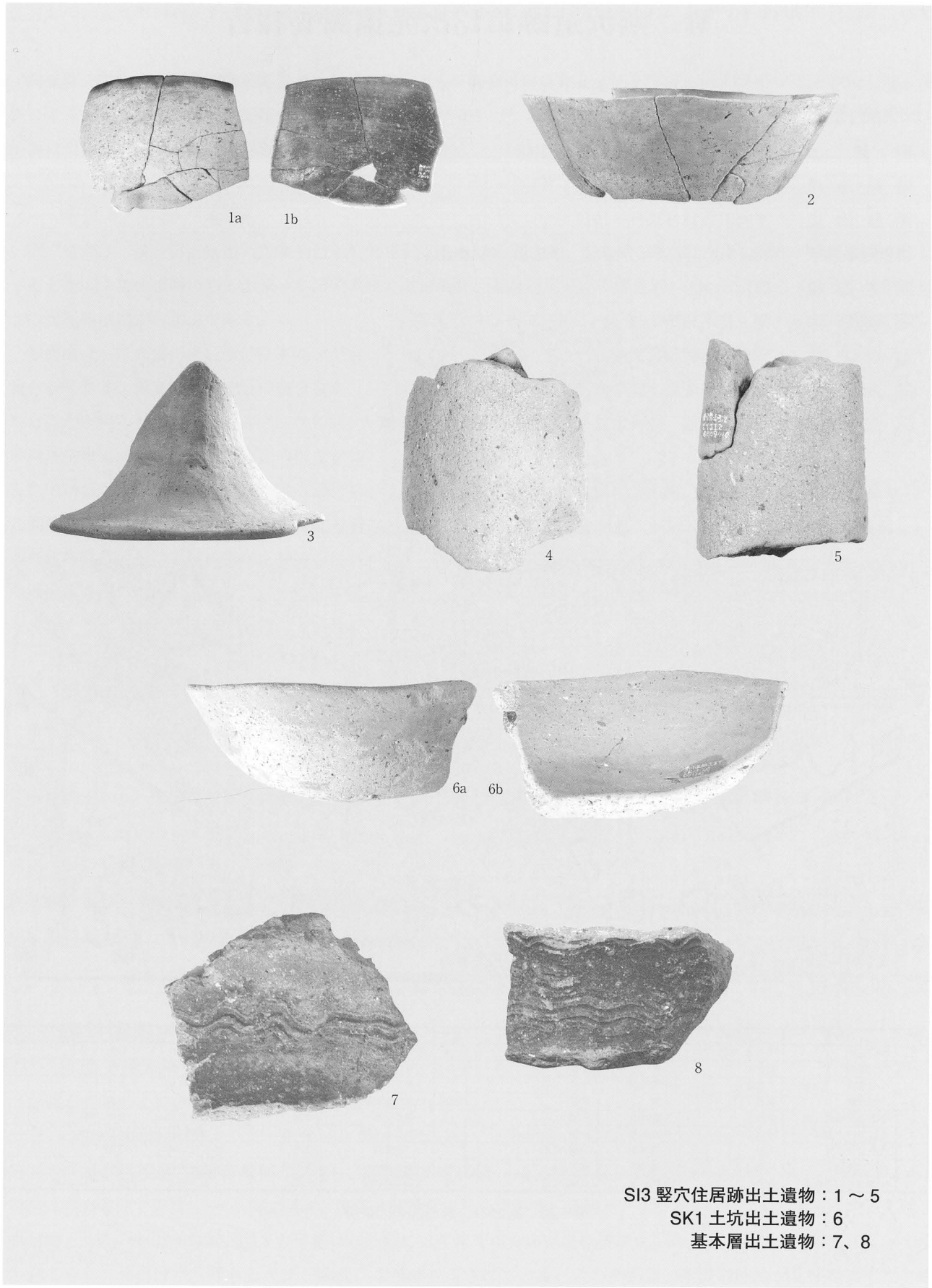
2　C区ＳＫ３完掘状況（南東から）

3　C区北壁断面（南から）

図版８　C区完掘状況・ＳＫ３土坑・調査区断面


1
2
3
4
5
6
7a
7b
8
9
10
11
12a
13a
14a
15a
12b
13b
14b
15b
16
20a
17
19
20b
18
SI1 竪穴住居跡出土遺物：1 ～ 4
SI2 竪穴住居跡出土遺物：5 ～ 20

図版 9　出土遺物(1)



図版10　出土遺物(2)

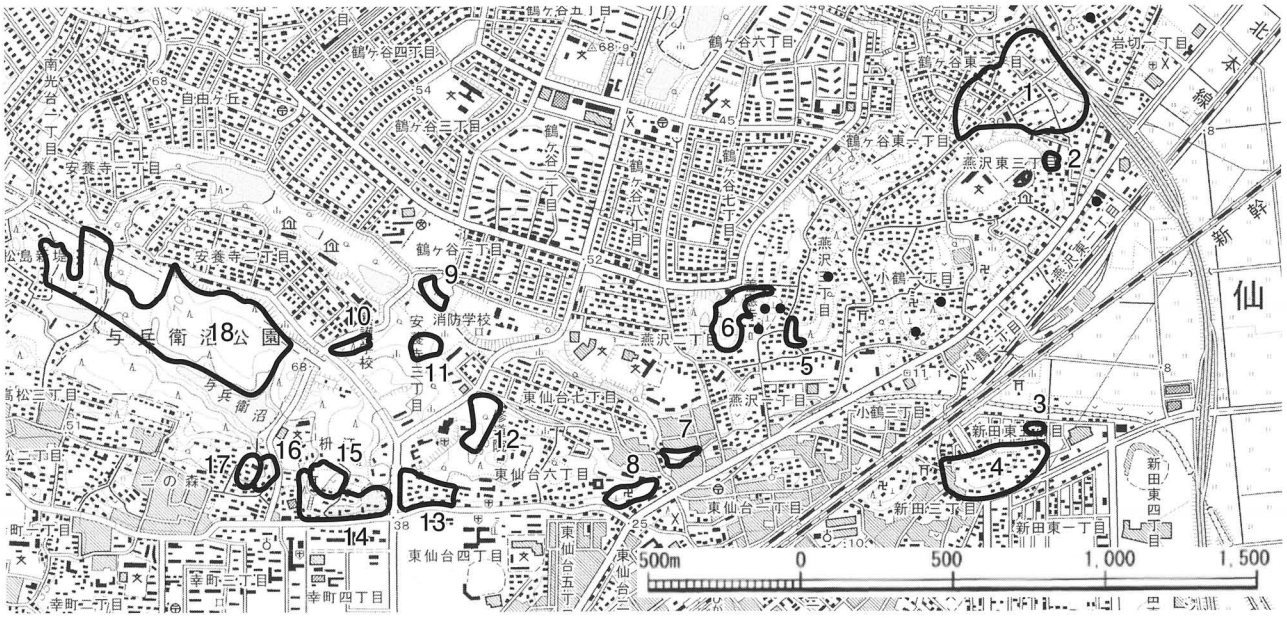
Ⅵ　燕沢遺跡第13次発掘調査報告

1　調査要項

遺　跡　名　　燕沢遺跡（宮城県遺跡番号01001）
調 査 地 点　　仙台市宮城野区燕沢東三丁目532－１
調 査 地 点　　平成21年11月16日～19日
調査対象面積　　122.6㎡（建築部分83㎡　車庫部分39.6㎡）
調 査 面 積　　21㎡
調 査 原 因　　個人住宅建築工事
調 査 主 体　　仙台市教育委員会
調 査 担 当　　仙台市教育局生涯学習部文化財課調査係
調 査 職 員　　文化財教諭　佐々木匠　　文化財教諭　菊地貴博

2　調査に至る経過と調査方法

調査は、平成21年９月７日付けで地権者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財の届出について」



番号	遺跡名	種別	立地	時代	番号	遺跡名	種別	立地	時代
1	燕沢遺跡	散布地、集落、寺院	丘陵	縄文～平安	10	安養寺配水場前窯跡	窯跡	丘陵斜面	奈良、平安
2	吉沢遺跡	散布地	丘陵	平安	11	安養寺囲瓦窯跡	窯跡	丘陵斜面	平安
3	小鶴遺跡	散布地	自然堤防	平安	12	安養寺下瓦窯跡	窯跡	丘陵斜面	奈良、平安
4	小鶴城跡	城館	丘陵	中世	13	小田原前田窯跡	窯跡	丘陵斜面	奈良
5	善応寺東横穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	古墳	14	神明社窯跡	窯跡	丘陵斜面	奈良、平安
6	善応寺横穴墓群	横穴墓	丘陵斜面	古墳	15	神明社裏遺跡	散布地	丘陵	奈良、平安
7	燕沢公園窯跡	窯跡	丘陵斜面	古墳、奈良	16	二の森窯跡	窯跡	丘陵斜面	平安
8	大蓮寺窯跡	窯跡	丘陵斜面	古墳、奈良	17	二の森遺跡	散布地	丘陵斜面	平安
9	安養寺中囲瓦窯跡	窯跡	丘陵斜面	奈良、平安	18	与兵衛沼窯跡	窯跡	丘陵斜面	奈良、平安、近世

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡

に対して、文化財保護法第93条（H21教生文第152-95号で回答）に基づき実施した。調査は平成21年11月16日に着手した。

調査は、掘削深度が深い車庫部分でのみ行うこととし、調査区は南北２ｍ×東西10．5mのトレンチを設定した。重機によりⅠ・Ⅱ層を掘削し、Ⅲ層上面において人力で精査を行って遺構を検出した。遺構の掘り下げを行い、断面、平面について写真・図面で記録した後、調査を終了した。

3　遺跡の位置と環境

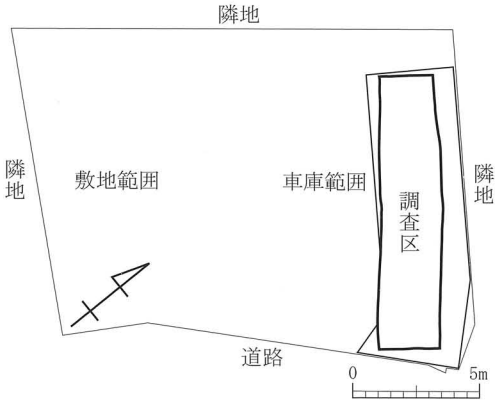
燕沢遺跡は、仙台市北東部のJR東仙台駅の北東約２ｋｍに位置する。遺跡は、七北田川と広瀬川の間に形成されている七北田丘陵の東端にある台原・小田原丘陵の最東端部、七北田川右岸の標高20～30mに立地している。沖積平野との比高差は約10～20mである。

本遺跡は、これまでに12次に及ぶ調査が実施されており、縄文時代～中世の複合遺跡であることが明らかにされている。古代では、多賀城創建以前から創建期頃の瓦の出土が知られている。また、遺跡南東部では「僧坊」と推定される建物や溝跡が検出され、その周辺の建物群とともに寺院の伽藍を形成していたと推定されている。遺物は、平安時代の瓦や墨書土器、土師器片も多く出土している。

第２図　調査地点位置図

4　基本層序

基本層は、Ⅰ～Ⅲの大別３層から成り、Ⅱ層はa・bに細別される。盛土は、北側の薄い部分で20cmあり、南側ほど徐々に厚くなっている。Ⅰ・Ⅱ層は旧表土層である。Ⅱ層は黒褐色のシルト質粘土で、風化した礫の小片・炭化物を含む。Ⅲ層は黄褐色の砂礫層で遺構確認面である。



第３図　調査区配置図

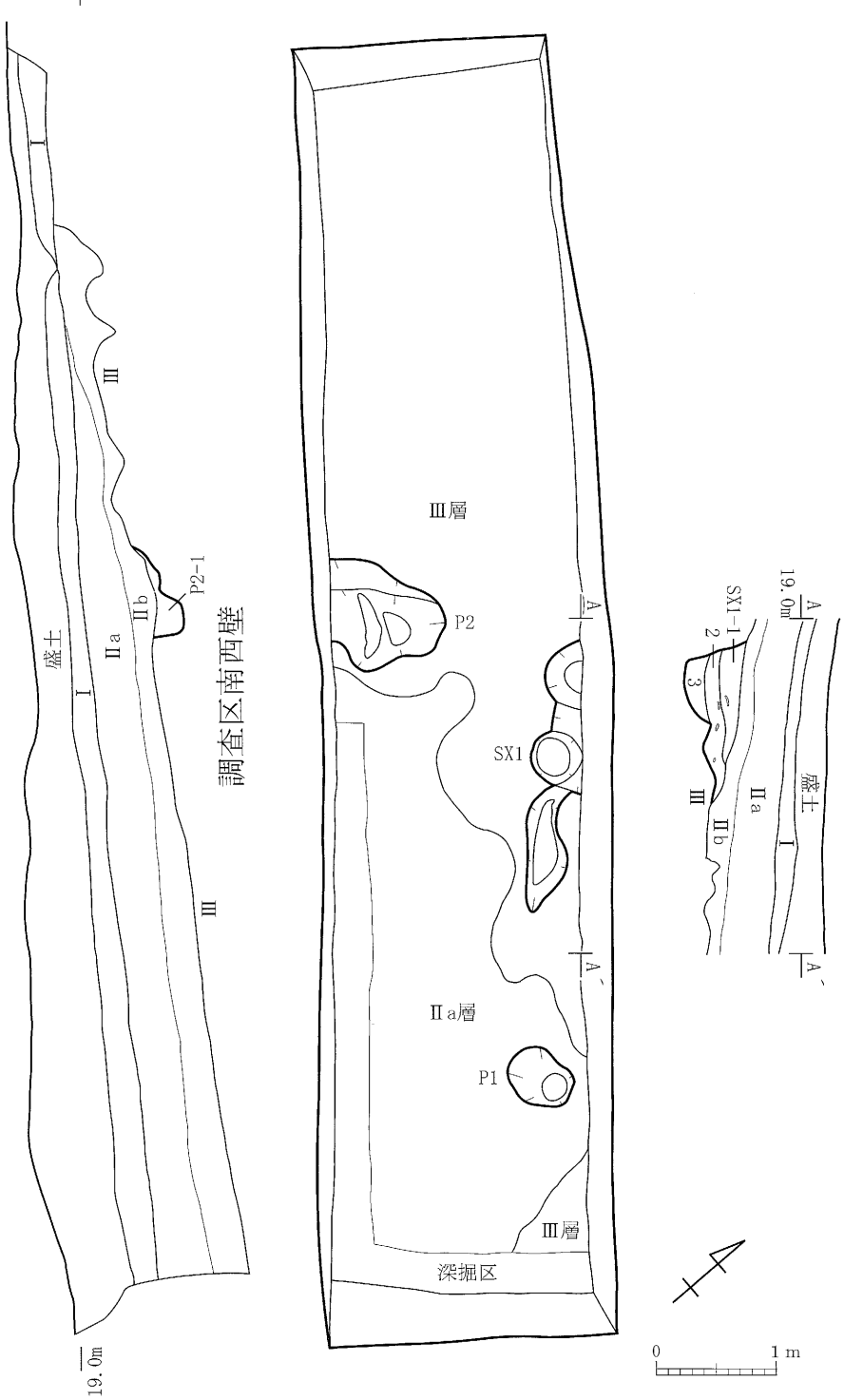
5　発見遺構と出土遺物

(1)　Ⅲ層上面検出遺構

Ⅲ層上面でピット２基、性格不明遺構１基が検出された。

１）性格不明遺構

ＳＸ１性格不明遺構　調査区東部に位置し、東側は調査区域外に延びている。平面形は不整形で、底面は凹凸がある。規模は検出範囲で東西1.2m、南北54cm、深さは最深部で31cmである。遺物は、１層から平瓦２点、丸瓦１点、瓦片２点が出土した。そのうち第５図６の平瓦は、凹面には明瞭ではないが模骨痕が見られ、布目がケズリ調整によって消されている。凸面は平行叩き目がナデ調整により磨り消されている。この平瓦は、燕沢遺跡出土瓦分類の平瓦２類（仙台市教委1984）にあたり、多賀城創建期か、それ以前の年代が想定されている（仙台市教委1991）。瓦以外の遺物



基本層	土　　色	土　　性	備　　考
Ⅰ	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	
Ⅱa	10YR3/1黒褐色	シルト質粘土	
Ⅱb	10YR3/2黒褐色	シルト質粘土	層下部に乱れあり。
Ⅲ	10YR5/8黄褐色	シルト質砂	黒褐色(10YR3/2)シルトブロック少量含む。礫少量含む。

遺構名	堆積土	土　　色	土　　性	備　　考
SX1	1	10YR3/1黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色(10YR5/4)シルトブロック微量含む。土師器片、瓦含む。
	2	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	焼土塊、炭化物含む。土師器片含む。
	3	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色(10YR5/4)シルトブロック少量含む。土師器片含む。

第4図　Ⅲ層上面検出遺構平面図・断面図

としては、底部に回転糸切りの痕跡が残る須恵器坏、ロクロ土師器の坏（第５図２）などが出土している。

２）ピット

２基のピットが検出された。Ｐ１の平面形は直径50cmの楕円形で、深さは32cmである。堆積土は単層で、柱痕跡は確認されなかった。遺物は出土していない。Ｐ２の平面形は不整形で径１m程である。底面には凹凸があり、深さは最深部で35cmである。遺物は出土していない。倒木痕の可能性がある。

６　まとめ

①今回調査地点は、燕沢遺跡の南西端に位置し、標高は約19mである。遺構は、Ⅲ層上面で性格不明遺構１基とピット２基が検出された。

②ＳＸ１性格不明遺構から出土した平瓦（第５図６）は、桶巻き作りで、凹面→凸面の順に調整されており、多賀城ＩＡ類（宮城県教委・多賀城跡研究所1982）の製作工程が考えられる。

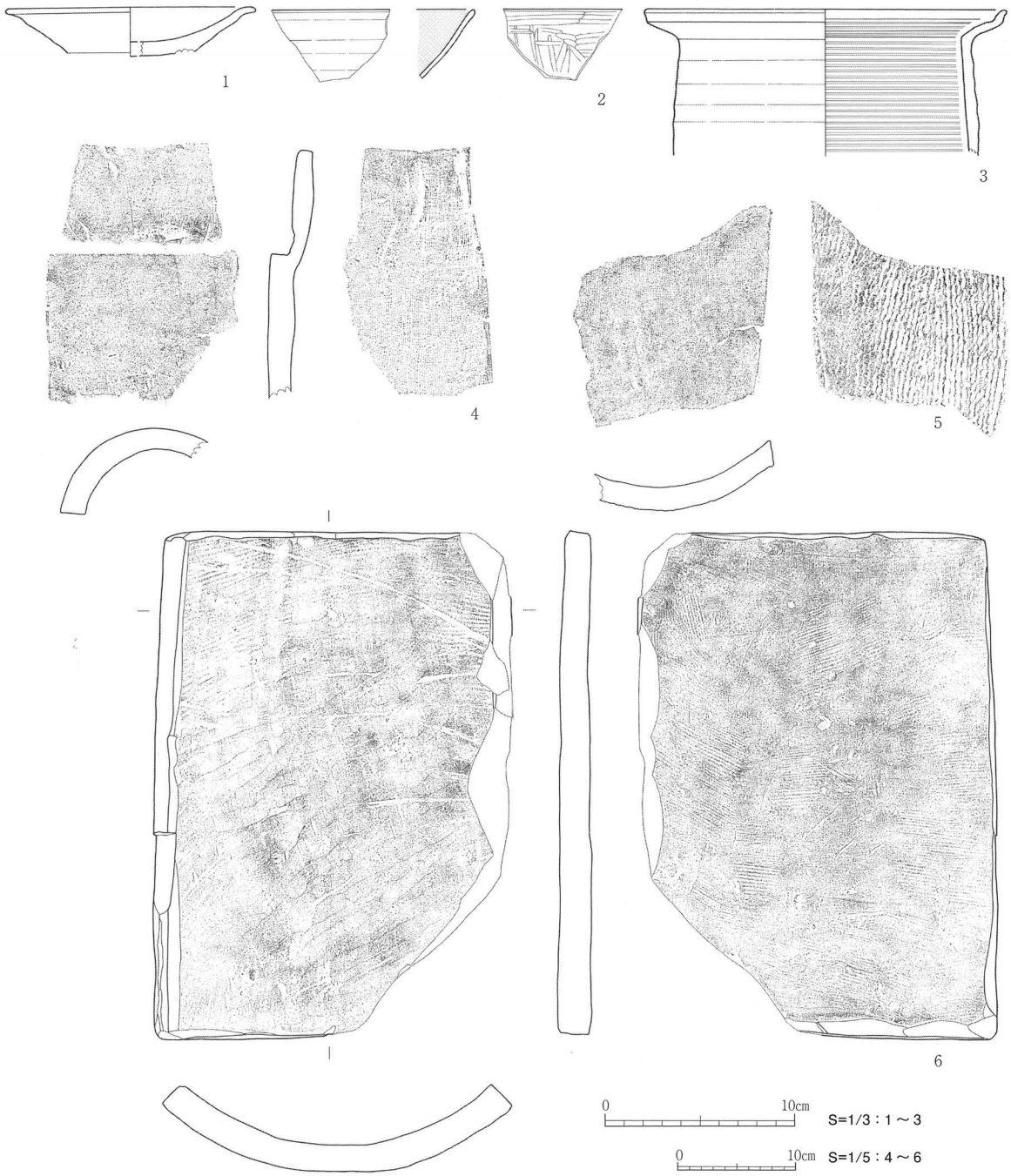
③周辺には、僧坊と推定される掘立柱建物跡を含む数棟の建物群が発見されるなど、平安時代の寺院の存在が指摘されており、今回の出土遺物（第５図４、５）は、この寺院と関連する可能性が考えられる。

参考文献

宮城県教育委員会・宮城県多賀城跡調査研究所1982『多賀城跡政庁跡　本文編』

仙台市教育委員会1984『燕沢遺跡』仙台市文化財調査報告書第62集

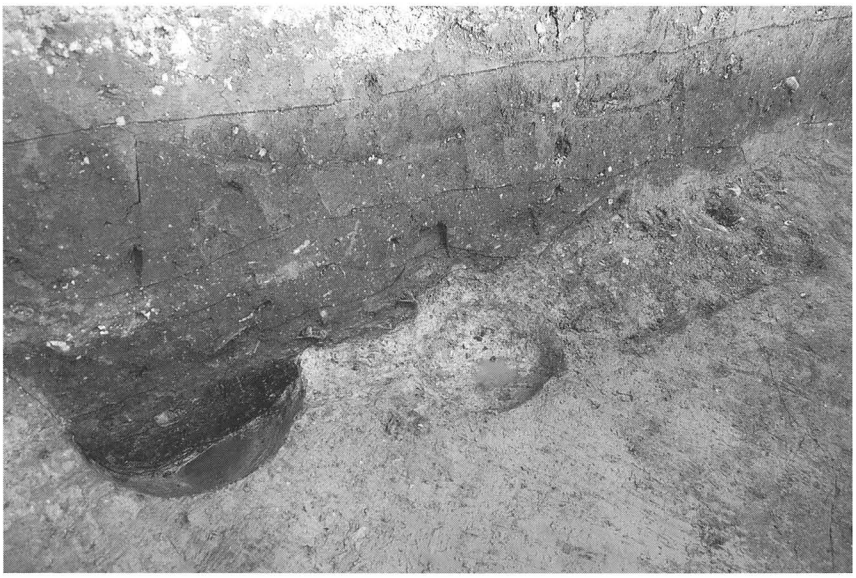
仙台市教育委員会1991『燕沢遺跡　第４・５・６次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第154集



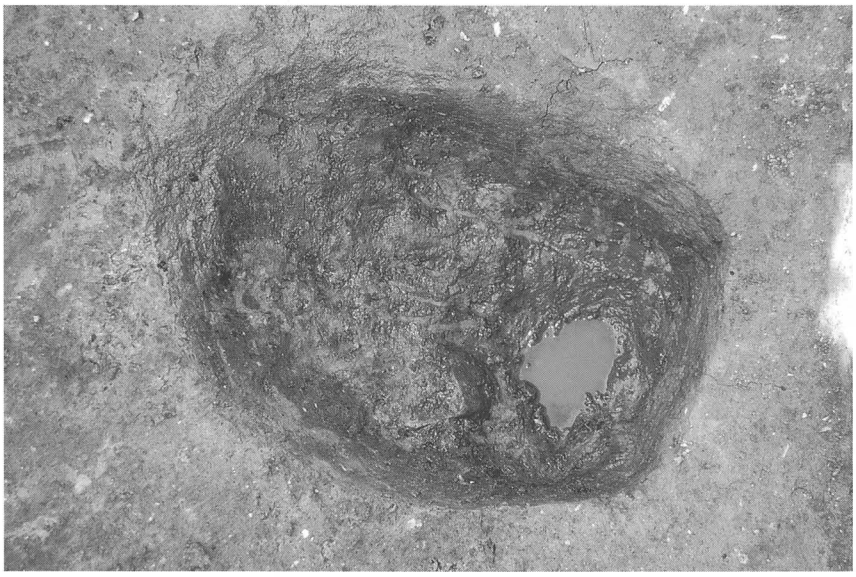
図中番号	登録番号	遺構名	出土層位	種別	器種	法量			備考	写真図版
						器高	口径	底径		
5－1	D－1	Ⅱ		ロクロ土師器	高台皿	(2.6)	(13.2)	—	内外面:ロクロ調整	3－1
5－2	D－2	SX1	1	ロクロ土師器	坏	(3.7)	—	—	内外面:ロクロ調整、内面:ミガキ→黒色処理	3－2
5－3	D－4	SX1	1	ロクロ土師器	甕	(7.8)	(19.2)	—	内外面:ロクロ調整、内面:ヘラナデ	3－3
	D－3	SX1	1	ロクロ土師器	坏	—	—	—	内外面:ロクロ調整	3－4
	C－1	SX1	1	土師器	碗	—	—	—	内面:ミガキ→黒色処理	3－5
	C－2	SX1	1	ロクロ土師器	碗	—	—	—	内外面:ロクロ調整　内面:ミガキ→黒色処理	3－6
	E－1	SX1	1	須恵器	坏	—	—	—	底部:ヘラ切り	3－7
5－4	F－1	SX1	1	瓦	丸瓦	(22.5)	(13.1)	2.3	凹面:布目痕　凸面:縄叩き→ナデによるすり消し、有段	3－8
5－5	G－2	SX1	1	瓦	平瓦	—	—	—	凹面:布目痕→一部ナデ　凸面:縄叩き	3－9
5－6	G－1	SX1	1	瓦	平瓦	44.5	31.2	3.0	凹面:(模骨痕)→縄目痕→ケズリ　凸面:平行叩き→ナデ	3－10
	G－3	SX1	1	瓦	軒平瓦	—	—	—	凹面:布目痕　凸面:ナデ	3－11

第5図　出土遺物

1　Ⅲ層上面遺構完掘全景（西から）



2　ＳＸ１性格不明遺構完掘状況（南から）



3　Ｐ１完掘状況（東から）

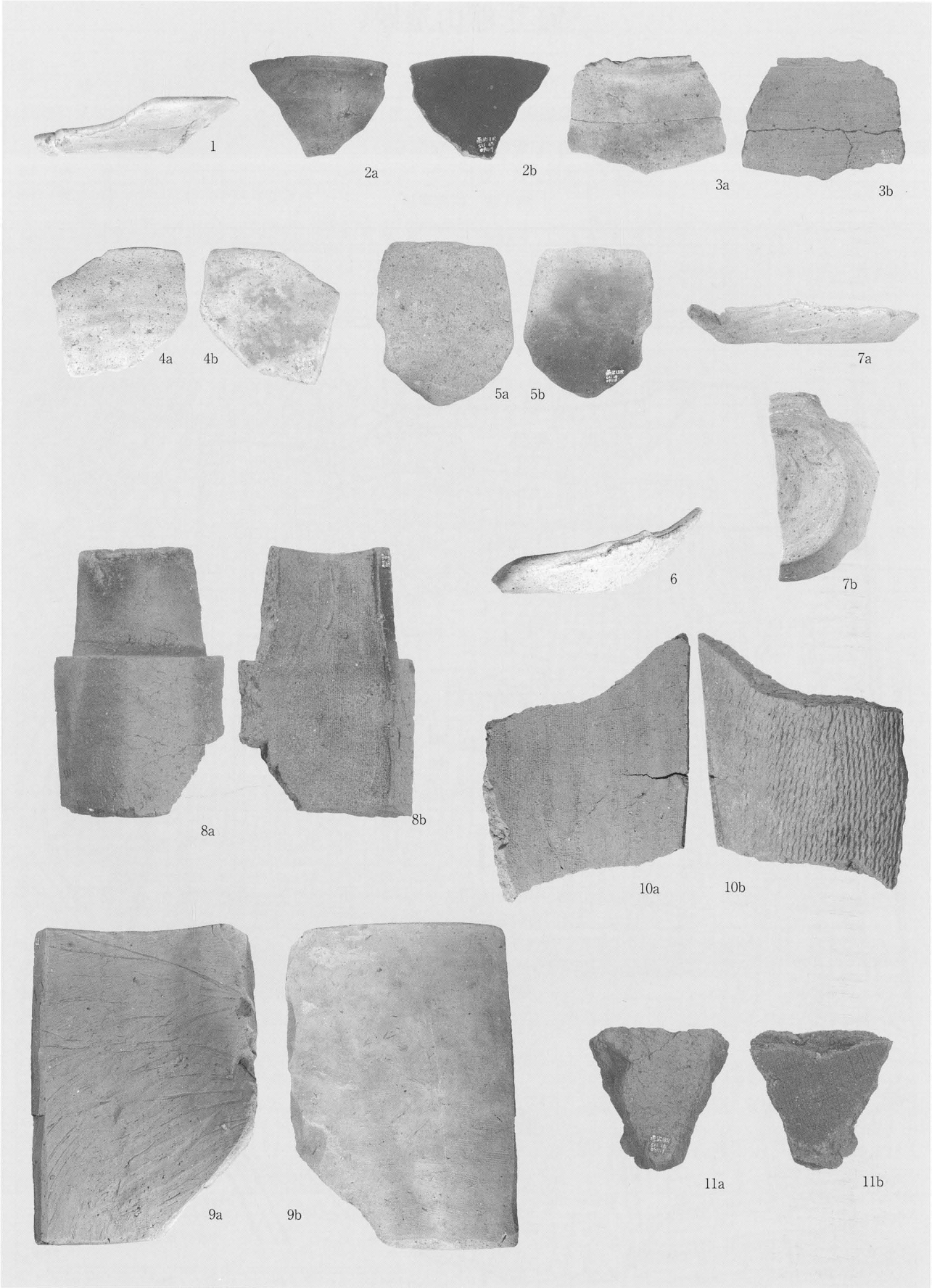
図版１　Ⅲ層上面検出遺構

1　Ｐ２完掘状況（北から）

2　調査区南壁断面（北西から）

3　調査区東壁断面（西から）

図版２　Ｐ２完掘および調査区断面



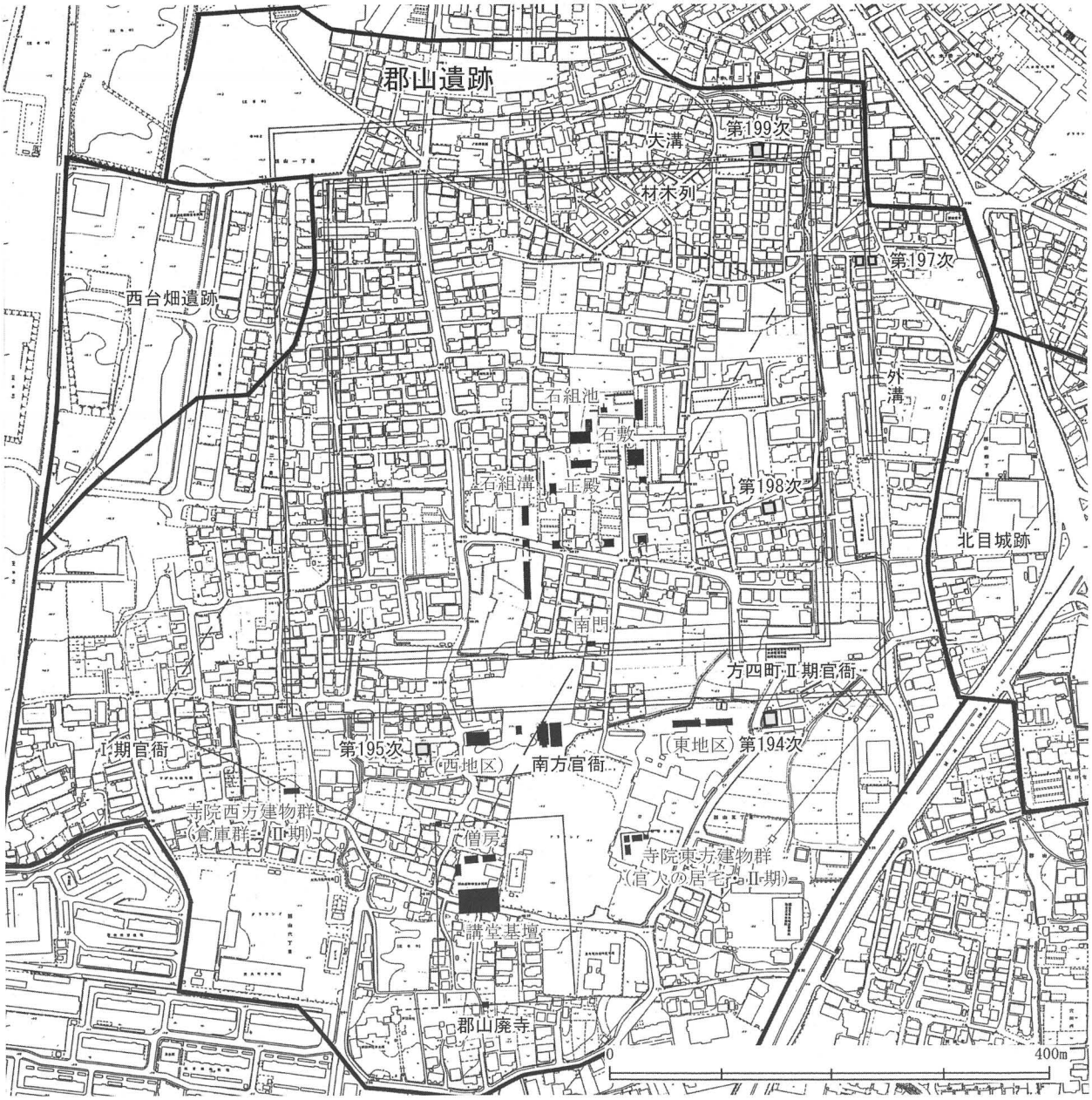
図版３　出土遺物

Ⅶ　郡山遺跡

平成21年度に実施した個人住宅建築に伴う発掘調査は、第１表･第1図の通りである。なお、調査の結果及び抄録は仙台市文化財調査報告書第373集『郡山遺跡30』に所収している。

第１表　調査実績

調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	調査原因
郡山遺跡第194次	南方官衙東地区	36㎡	平成21年４月20日～４月28日	個人住宅建築
郡山遺跡第195次	南方官衙西地区	20㎡	平成21年６月22日～６月24日	個人住宅建築
郡山遺跡第197次	Ⅱ期官衙外溝東辺	18㎡	平成21年11月30日	個人住宅建築
郡山遺跡第198次	Ⅱ期官衙東部	30㎡	平成21年12月２日～12月11日	個人住宅建築
郡山遺跡第199次	Ⅱ期官衙大溝北辺	70㎡	平成21年12月14日～12月18日	個人住宅建築



第１図　調査地点位置図

報告書抄録

ふりがな	せんだいへいやのいせきぐん
書名	仙台平野の遺跡群
副書名	平成21年度発掘調査報告書　鴻ノ巣遺跡他
巻次	ＸＸ
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書
シリーズ番号	第371集
編著者名	森田義史　鈴木隆　大久保弥生　佐々木匠　菊地貴博　千葉恭彦
編集機関	仙台市教育委員会
所在地	〒980－8671　宮城県仙台市青葉区二日町１－１　　電話　022－214－8894
発行年月日	平成22年３月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
鴻ノ巣遺跡（こうのす）（第12次）	仙台市宮城野区岩切字三所北（せんだいしみやぎのくいわきりあざさんじょきた）125－28	04100	01034	38°17′51″	140°57′05″	2009・5・25 2009・5・27	88.64㎡	個人住宅建築
小鶴城跡（こづるじょうあと）（第５次）	仙台市宮城野区新田三丁目（せんだいしみやぎのくしんでんさんちょうめ）44－１、45－１の一部	04100	01194	38°16′36″	140°55′57″	2009・9・28 2009・9・29	24㎡	個人住宅建築
大野田古墳群（おおのだこふんぐん）（第19次）	仙台市太白区大野田字宮脇（せんだいしたいはくくおおのだあざみやわき）19、20－１、－３、－５、21の一部	04100	01361	38°12′43″	140°52′45″	2009・10・19 2009・10・22	41.25㎡	個人住宅建築
南小泉遺跡（みなみこいずみ）（第63次）	仙台市若林区遠見塚二丁目（せんだいしわかばやしくとおみづかにちょうめ）106－７、106－９、106－２の一部	04100	01021	38°14′14″	140°54′35″	2009・10・26 2009・11・13	73.3㎡	個人住宅建築
燕沢遺跡（つばめさわ）（第13次）	仙台市宮城野区岩切字三所北（せんだいしみやぎのくいわきりあざさんじょきた）124－５	04100	01001	38°17′52″	140°57′05″	2009・11・16 2009・11・19	21㎡	個人住宅建築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鴻ノ巣遺跡（こうのす）（第12次）	集落跡・屋敷跡・水田跡	弥生、古墳、奈良 平安、中世	溝跡	土師器、須恵器、 中世陶器	過去の調査と接続する溝跡
小鶴城跡（こづるじょうあと）（第５次）	城館跡	中世	溝跡	なし	小鶴城跡南西部の堀跡
大野田古墳群（おおのだこふんぐん）（第19次）	古墳	古墳	古墳周溝	縄文土器、埴輪、石器	大野田40号墳の周溝
南小泉遺跡（みなみこいずみ）（第63次）	集落跡・屋敷跡	弥生、古墳、奈良 平安、中世、近世	竪穴住居跡、土坑	土師器、須恵器	３軒の竪穴住居跡
燕沢遺跡（つばめさわ）（第13次）	集落跡・寺院跡	縄文、弥生、古墳 奈良、平安	性格不明遺構	瓦	多賀城創建期に遡る平瓦

要約

鴻ノ巣遺跡では２時期の遺構面で大小５つの溝跡が検出された。そのうちSD１溝跡は検出幅約４ｍ、深さ約80cmで、平成20年度調査のＳＤ１溝跡の南延長部分と考えられる。堆積土中から13世紀代の常滑甕やロクロ土師器・須恵器が出土した。

小鶴城跡では、城の南西側において堀跡と考えられる溝跡を検出した。溝の検出幅は約5.5ｍ、検出面からの深さは最大70cm程である。出土遺物はなく、埋没年代は不明である。

大野田古墳群では古墳の周溝が検出され、新たに大野田40号墳となった。周溝の外縁径は約20ｍで、円墳と推定される。周溝内からは円筒埴輪片の他、宝ヶ峰式の縄文土器が出土している。

南小泉遺跡では３軒の竪穴住居跡が検出された。そのうちＳＩ２・ＳＩ３竪穴住居跡は切り合い関係にあり、新しいＳＩ３竪穴住居跡は床面出土遺物から平安時代の年代が与えられる。

燕沢遺跡では、遺構は不明確であるが、多賀城ＩＡ類と考えられる平瓦が出土した。多賀城創建前後の年代が想定される。

仙台市文化財調査報告書第371集

仙台平野の遺跡群XX

発掘調査報告書

2010年3月

発行　仙台市教育委員会
仙台市青葉区二日町１－１
文化財課　TEL 022（214）8894

印刷　遠山青葉印刷 株式会社
仙台市青葉区木町通二丁目５－24
TEL 022（272）7371